令和４年度社会福祉法人
茨木市社会福祉協議会事業報告

新型コロナウイルス感染症が収束するまでには至りませんでしたが、マスク着用の緩和も含め、世の中も徐々に感染症との共存へとシフトしていき、それと並行してサッカーワールドカップや野球ＷＢＣにより、元気と笑顔が戻ってきた１年でした。

そして私たちが暮らす地域においても、感染拡大の防止に配慮しながらコロナ前の規模とまではいきませんが活動を再開し、まだまだ先が見えない中でも工夫をこらし活動を進めていく中で、少しずつ活気も取り戻してきています。

その様な中、本協議会では、中期財政改善計画の中間見直しを行い、各種事業やそれに伴う財政面の改善等これまでの取組みの評価と今後の方向性を確認しました。また、令和４年度単年での財務状況につきましては、計画的な基金の取り崩しなどを行いつつ、黒字決算となりました。今後も中期財政改善計画の方向性を意識しながら、茨木市とも更なる協議を重ね、令和５年度に改めて策定される市地域福祉計画と社協地域福祉活動計画に沿った事業を展開していきます。

さらに、各事業で大きな部分として、まず地区福祉委員会事業では、コロナ禍の経験から、改めて活動の意義を見つめ直すことを意識し、各地区の実情に応じた取り組みを実施しようと創意工夫を重ねてきました。中でも、令和３年度から開始した「IBARAKIコミュニティ・カーシェアリング事業」については、参画地区も増え、今まで各地区が抱えていた「地区の各種事業への参加」「通院や買い物等の移動」に関する課題が解消され、併せてこの事業から外出を自粛していた住民と運転ボランティアとして協力してくれた方々と新たな交流も生まれ、地域の活性化の一翼を担うことができました。

ボランティアセンター事業では、高齢者施設での活動等は依然活発とはいえませんが、地域活動の再開が影響し、ボランティア登録者の活動機会も徐々に増えていることから、ニーズに沿った研修会や講座を開催するなど、活動の活性化を意識した取り組みを行いました。

災害ボランティアセンター事業では、本協議会内での運営シミュレーション研修会を継続し、併せて新たに設置された茨木市南地区保健福祉センターとも相互の連携等について協議を重ね、災害ボランティアセンター機能の基盤強化に努めました。

生活福祉資金貸付事業では、令和２年３月から行っていた「新型コロナウイルス特例貸付」が令和４年１０月で終了し、令和５年１月から償還が始まったことをうけて、現時点で償還が難しい方々への「新型コロナウイルス特例貸付フォローアップ支援事業」も開始しました。

最後に、茨木市が行う予定である「重層的支援体制整備事業」についても、検討の場に当初から参画し、これまで社協が行ってきた事業との連動等についても意見し、今後は「参加支援事業」の部分で連携することとなりました。

１　組織規模・構成について（令和５年３月末現在）

（１）役　員

①理　事　　１０人

②監　事　　２人

（２）評議員　　１６人

（３）地区福祉委員会　　３３地区

（４）組織構成会員　　９２団体

（５）事務局

①事務局長　１人　⑤副主幹　１人　⑨任期付職員　４人

②参　　与　１人　⑥主　任　２人　⑩非常勤職員等　４人

③課　　長　２人　⑦職　員　４人

④課長代理　１人　⑧準職員　１０人

（６）賛助会員数等

（表1：前年比較）

区　　分		令和４年度 (R5.3.末)①	令和３年度 (R4.3.末)②	対前年度伸率 ①／②
人　　口		285,224人	283,678人	100.54%
世　帯　数		132,300世帯	130,141世帯	101.66%
賛　助 会員数	個　人	21,540件	22,700件	94.89%
	特別・法人	396件	418件	94.73%
賛　助 会費額	個　人	13,023,500円	13,907,000円	93.65%
	特別・法人	3,016,000円	2,840,000円	106.201%
	計	16,039,500円	16,747,500円	95.77%
加入率（個人賛助会員数／世帯）		16.28%	17.44%	

（表2：賛助会員地区別状況）

（円）

No.	地区名	個人会員		特別会員		法人会員		合　計	
		会員数	金　額	会員数	金　額	会員数	金　額	会員数	金　額
1	中　条	1,035	527,500	6	34,000	14	85,000	1,055	646,500
2	春 日	740	455,500	9	18,000	27	190,000	776	663,500
3	玉 櫛	947	538,500	1	2,000	11	70,000	959	610,500
4	豊 川	246	211,000	3	291,000	1	10,000	250	512,000
5	見 山	269	134,500	22	24,000	6	30,000	297	188,500
6	玉 島	433	276,500	2	31,000	9	65,000	444	372,500
7	三 島	1,090	588,000	6	45,000	11	55,000	1,107	688,000
8	東	663	397,000	1	10,000	0	0	664	407,000
9	春日丘	688	431,500	1	3,000	13	65,000	702	499,500
10	茨 木	880	493,500	6	178,000	16	100,000	902	771,500
11	石 河	206	193,000	2	4,000	2	10,000	210	207,000
12	太 田	885	556,000	2	25,000	20	115,000	907	696,000
13	清 渓	236	299,000	1	3,000	27	220,000	264	522,000
14	安 威	693	555,000	0	0	4	20,000	697	575,000
15	福 井	659	436,000	5	105,000	11	80,000	675	621,000
16	中 津	1	10,000	0	0	0	0	1	10,000
17	大 池	1,275	682,000	3	3,000	1	5,000	1,279	690,000
18	郡	720	375,500	1	1,000	1	10,000	722	386,500
19	天 王	831	508,000	3	31,000	18	100,000	852	639,000
20	沢池	585	416,000	2	134,000	4	20,000	591	570,000
21	新郡山	508	326,500	1	2,000	5	35,000	514	363,500
22	水 尾	737	439,500	1	1,000	5	25,000	743	465,500
23	葦 原	718	387,500	3	12,000	10	50,000	731	449,500
24	庄 栄	379	233,000	5	81,000	8	45,000	392	359,000
25	畑 田	253	161,500	2	40,000	0	0	255	201,500
26	耳 原	636	378,500	15	100,000	8	50,000	659	528,500
27	山手台	921	460,500	0	0	0	0	921	460,500
28	白 川	686	414,000	3	13,000	2	10,000	691	437,000
29	東奈良	730	464,000	3	52,000	9	50,000	742	566,000
30	穂 積	764	473,000	4	83,000	4	25,000	772	581,000
31	西河原	978	512,000	13	13,000	7	35,000	998	560,000
32	西	1,146	684,000	0	0	4	20,000	1,150	704,000
33	彩都西	0	0	3	15,000	1	5,000	4	20,000
	事務局	2	5,500	2	2,000	6	60,000	10	67,500
合　計		21,540	13,023,500	131	1,356,000	265	1,660,000	21,936	16,039,500

2　会議関係について

（1）理事会　6回

月 日	場　所	主　な　案　件	出席者数
5.23	社協会議室	1)茨木市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会委員選任について 2)茨木市社会福祉協議会給与規定の一部改正について 3)茨木市社会福祉協議会理事候補者の選定について 4)茨木市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会委員の招集について 5)茨木市社会福祉協議会評議員候補者の推薦について 6)「消費税課税について」「みんな集まれボランティアの開催について」（報告）	７人
5.31	社協会議室	1)令和４年度資金収支補正予算（案）について 2)令和３年度茨木市社会福祉協議会事業報告・収支決算認定について 3)「善意銀行払出」「コミュニティ・カーシェアリング事業」について（報告）	８人
7. 1	社協会議室	1)茨木市社会福祉協議会会長・副会長・常務理事の選定について 2)消費税課税について（報告）	９人
10.13	社協会議室	1)茨木市社会福祉協議会中期財政改善計画中間見直しについて 2)善意銀行寄附金の取り扱いについて 3)「令和５年度の職員採用」「共同募金運動」について（報告）	１０人
1.17	社協会議室	1)令和４年度上半期事業報告・決算見込みについて 2)中期財政改善計画中間見直し時点における収支改善状況について 3)「重層的支援体制整備事業の進捗状況」「コロナ特例貸付借受人へのフォローアップ支援事業」について（報告）	７人
3. 3	社協会議室	1)令和５年度茨木市社会福祉協議会事業計画・資金収支予算（案）について 2)茨木市社会福祉協議会評議員選任・解任委員会の招集について 3)茨木市社会福祉協議会評議員候補者の推薦について 4)役員等賠償責任保険契約の締結（更新）について 5)令和５年度事務局職員体制について（報告）	９人

（2）評議員会　2回

月 日	場　所	主　な　議　案	出席者数
6.15	社協会議室	1)令和３年度茨木市社会福祉協議会事業報告及び一般会計決算承認について 2)茨木市社会福祉協議会理事・監事の選任について 3)「コミュニティ・カーシェアリング事業」について（報告）	１３人
3.28	社協会議室	1)令和５年度茨木市社会福祉協議会事業計画・資金収支予算（案）について 2)「令和５年度事務局職員体制」について（報告）	１１人

（3）その他の会議等の開催状況

会議の名称	開　催　日
監　査	5.31　計１回
評議員選任・解任委員会	6.3 3.8　計２回
執行役員会	4.20 5.19 6.22 7.26 8.22 9.29 10.25 11.21 12.22 1.27 2.16　計 11 回

3　社会福祉援助技術現場実習の受入れについて

講義形式で社協の各事業や役割とその意義などを学び、地域にも出向き地区福祉委員会活動を中心に見学、参加してもらい、併せて相談業務にも同行し、専門職としての関わり方も学び、実践力の向上にも繋がるように努めました。

日　時	大学	内　容
8.15～ 9.30 の内 24 日間 ＊8.17～8.28 中断	武庫川女子大学 1 人: 186 時間	○社協各種事業活動の講義 ○地区福祉委員会事業や日常生活自立支援事業等での同行、訪問等 ○報告会「りんご町のかさやさん」
11. 1 ～ 12.9 の内 27 日間	日本メディカル福祉専門学校 1 人:204 時間 45 分 龍谷大学 1 人:181 時間 30 分	○社協各種事業活動の講義 ○地区福祉委員会事業や日常生活自立支援事業等での同行訪問等 ○報告会「社会福祉協議会の役割と可能性 ～実習で学んだことを活かしていく～」 ：メディカル福祉専門学生 「社協をたくさんの人に知ってもらうには？」 ：龍谷大学生

【事業評価】

・実習半ばで「中間報告」という時間を設けたことから、実習生と担当職員とで実習前半での学びの振り返りができ、後半に向けて実習生及び社協としてもう一歩踏み込んだ実習内容の軌道修正等をすることが出来ました。

・社協職員も、ただ担当事業等のレクチャーをするだけでなく、学生であり市民である視点を聞かせてもらうことで今後の事業展開の参考にもなりました。

・実習報告会でも、学生ならではの視点で見た社協の在り方や動き、それに伴うＰＲ方法等を披露してもらい、社協事務局としても今後の地域福祉推進にあたっての重要なアイデアを得ることが出来ました。

４　広報活動について

広報担当者と各職員が連携して毎号コンセプトを決め、それに合った内容で多様な角度からの社協事業の啓発に努めました。

また、ホームページでは、社協事務局からの情報提供だけでなく地区福祉委員会が直接書き込むブログコーナーにも力を入れ、社協や地区福祉委員会の活動をできるだけ多くの住民に知ってもらえるよう努めています。

（１）広報誌編集委員会　３回

月　日	場　　所	主　　な　　内　　容
7．2	社会福祉協議会会議室	広報誌「社協だより」（福祉茨木）第209号の編集会議
9.29	社会福祉協議会会議室	広報誌「社協だより」（福祉茨木）第210号の編集会議
2.25	社会福祉協議会ボラセン交流ルーム	広報誌「社協だより」（福祉茨木）第211号の編集会議

（２）広告審査委員会　１回

月　日	場　　所	主　　な　　内　　容
9．7	社会福祉協議会事務所	「社協だより」第211号：一般社団法人 茨木医師会

（３）「社協だより」（福祉茨木）の発行　年３回 全戸配布

号	月　日	主　　な　　内　　容	発行部数
第208号	4．1	○茨木市社協設立70周年企画事業結果発表 ○令和４年度茨木市社会福祉協議会の事業計画 ○IBARAKIコミュニティ・カーシェアリング進捗状況 ○地区福祉委員会の活動レポート（彩都西・白川地区） ○ボラセン通信（みんな集まれボランティア他イベント・講座のご案内、ボランティアスタッフ募集） ○善意銀行報告 ○茨木市社協マスコットキャラクター紹介	135,400部 8ページ
第209号	8．1	○第27回みんな集まれ！！ボランティアinいばらき ○会長就任のごあいさつ ○社協力「福祉教育事業×トライ式高等学院 茨木キャンパス」 ○令和３年度社会福祉協議会事業・決算報告、令和４年度予算報告 ○地区福祉委員会の活動レポート（新郡山・天王地区） ○令和４年度 敬老会予定一覧 ○ボラセン通信（ボランティア体験プログラム参加者募集、教室・講座・ボラ♡かふぇ拡大開店のご案内） ○共同募金運動協力のお願い ○善意銀行報告 ○IBARAKIコミュニティ・カーシェアリング進捗状況	136,100部 8ページ

号	月　日	主　　な　　内　　容	発行部数
第210号	11．1	○“ぷらっとホーム”ってどんなところ？ ○地区福祉委員会の活動レポート（東・天王地区） ○今できることIBARAKIコミュニティ・カーシェアリング事業 ○賛助会員募集“地域の支えあい”を実現するために ○社協のしごと「日常生活自立支援事業」 ○社協力「茨木市障害者地域自立支援協議会」 ○ボラセン通信（ボランティアグループ「まふまふの会」「折り紙ボランティア」紹介） ○北摂のシニア大学校受講生募集 ○くじ募金にご協力 ○善意銀行報告 ○寄附物品の配布 ○ボランティアセンターより（各種講座・交流会等の今後の予定）	136,200部 8ページ
特別号	2．1	賛助会員募集啓発チラシの配付　135,600部　2ページ（両面）	

【事業評価】

・昨年度に引き続き今年度も社協だよりに代わって「賛助会員募集チラシ」を２月に全戸配布して啓発し、賛助会員を増やしていくよう努めました。

・ホームページでは、社協だよりでは時期的に掲載できない内容の情報を提供していくよう努めましたが、時期を逃してしまう事も多々あったため、次年度には広報啓発のチームを作り、社協だよりとホームページを活用して計画的な情報発信に努めていきます。

5　善意銀行運営事業について

金銭や物品の預託を行い、生活に困窮する世帯や施設、事業所等へ、或いはボランティア活動の啓発事業等へ払い出しを行っています。

（１）金銭預託及び払出し状況

預　　託		（円）	払　　出　　し	（円）
一　般　預　託	１０５件	３，２７０，３９６	ボランティア登録団体助成金	１４０，０００
合　　計		３，２７０，３９６	合　　計	１４０，０００

（２）物品預託及び払出し状況

預　　託		払　　出　　し
食 料 品	アイスケーキ、さつまいも、みかん、りんご、非常食、米、カップ麺、水等	（児童関係） レバノンホーム、希望館、子どもの家 （障がい児・者関係） 子民家よってこ、アクティブネットワークケアプランステーション、いきいきネット相談支援センターエルダー、天兆園、春日丘荘、あすてっぷ茨木、天王地区福祉委員会、茨木療護園、相談支援センターりあん、大池・中津地域包括支援センター、ボランティアの集い実行委員会、茨木市老人介護家族の会、南保健福祉センター、よどがわ市民生活協同組合 （その他） ・各施設・事業所及び生活困窮者へ ・学習・生活支援事業へ
貸 出 用 物　品	車椅子　２台 ベビーカー　２台	
その他	洗濯機、炊飯器、電子レンジ、テレビ、アイロン、電気ケトル、ガスコンロ、ドライヤー、文房具、紙おむつ、衣類、タオル、リハビリパンツ、バスタオル、尿取りパット、おしりふき、寝具、革靴、洗剤、衛生用品、トースター、絵本、ぬいぐるみ、シーリングライト、カセットコンロ、電池、鍋、	

【事業評価】

・定期的な団体等からの寄附に関しては、継続して児童養護施設や障害者施設等への払い出しを行っていますが、今年度はその他大手企業等からの金銭預託や物品預託の申し入れがあり、今後は施設等だけでなく、生活に困窮している世帯等へも定期的に預託物品が提供できる仕組みについても検討が必要と考えています。

６　各種機器貸出事業について

介護保険等の他制度での貸与ができない方（要介護１の認定以下の方等）や、緊急で必要となった方を対象に車椅子の貸出を行っています。

また、２歳未満の乳幼児を対象にベビーカーの貸出も行っている中、昨今の少子化の影響もあり、貸し出し事業を開始した頃から比べると年々貸出台数は減少していますが、経済的な理由等から必要とされる世帯もまだまだいらっしゃることから、継続して事業を行っています。

研修用の車椅子やアイマスク、高齢者疑似体験セットの貸出については、小学校を始め地区福祉委員会やその他各種団体の福祉教育や体験学習等に活用されています。

（１）車椅子貸出台数（保有台数　５９台）　※他研修用車椅子１２台

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
４年度	２５	２６	２７	１５	２４	１９	３２	３５	２８	２３	３０	２２	３０６
３年度	１５	６	２０	２１	１２	１３	２１	２１	２２	１５	２４	１４	２０４

（２）ベビーカー貸出台数（保有台数　３６台）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
４年度	4	2	2	8	4	2	4	2	1	1	2	7	３９
３年度	7	2	2	1	2	3	7	3	4	1	4	2	３８

（３）その他の機器（福祉教育事業での利用実績を含む）

月　日	種　　別	貸　出　先	備　　考
5.16～8.5	自転車１台	あすてっぷ相談者	就労支援
6.2～6.3	車椅子１０台、アイマスク４０枚、踏み台、スロープ	東雲中学校	授業、体験学習
6.1～6.3	高齢者疑似体験セットＳ３個、Ｍ２個、Ｌ５個	三島中学校	授業、体験学習
6.24～6.27	車椅子６台	立命館大学	授業、体験学習
9.15～9.16	車椅子１２台	東奈良小学校	授業、体験学習
9.20	車椅子１０台	ナルク茨木・摂津拠点	車椅子講習会
9.29	車いす８台	生活クラブ生協大阪	組織内研修会
10.3～10.7	車椅子８台、アイマスク１５枚、高齢者疑似体験セットＳ８個、Ｍ４個	中津小学校	授業、体験学習
10.5～10.12	アイマスク２０枚	東奈良小学校	授業、体験学習

月　日	種　　別	貸　出　先	備　　考
10.6～10.11	高齢者疑似体験セットＬ５個	追手門学院大学	授業、体験学習
10.13～10.14	車椅子１２台、アイマスク４０枚	西陵中学校	授業、体験学習
10.17～10.19	車椅子８台	中条小学校	授業、体験学習
10.17～10.18	アイマスク４０枚	沢池小学校	授業、体験学習
10.19～10.21	車椅子６台、アイマスク３０枚、 高齢者疑似体験セットＳ８個、Ｍ４個	天王小学校	授業、体験学習
10.19～10.20	車椅子３台	郡山小学校	授業、体験学習
10.20～10.25	アイマスク４０枚	沢池小学校	授業、体験学習
10.24～10.26	車椅子１０台	春日丘小学校	授業、体験学習
10.29～11.2	車椅子１０台、アイマスク４０枚	葦原小学校	授業、体験学習
11.2～11.4	車椅子４台	忍頂寺小学校	授業、体験学習
11.4～11.7	車椅子１０台、アイマスク４０枚、 高齢者疑似体験セットＳ８個、Ｍ４個	福井小学校	授業、体験学習
11.8～11.9	車椅子１２台	大池小学校	授業、体験学習
11.10～11.11	車椅子１２台	耳原小学校	授業、体験学習
11.11～11.15	アイマスク４０枚	大池小学校	授業、体験学習
11.14～11.15	車椅子６台	安威小学校	授業、体験学習
11.17～11.18	車椅子１２台、アイマスク４０枚、 高齢者疑似体験セットＳ８個、Ｍ４個	東中学校	授業、体験学習
11.21～11.22	車椅子１０台	西中学校	授業、体験学習
11.24～12.1	アイマスク４０枚	彩都西小学校	授業、体験学習
11.28～11.29	車椅子１２台	穂積小学校	授業、体験学習
12.1～12.2	車椅子４台、高齢者疑似体験セットＳ８個、 Ｍ４個	東中学校	授業、体験学習
12.1～12.2	車椅子８台	沢池小学校	授業、体験学習
12.2	アイマスク４０枚	東中学校	授業、体験学習
12.5～12.7	車椅子１２台	郡山小学校	授業、体験学習

月　日	種　　別	貸　出　先	備　　考
12.13～12.14	車椅子１２台、アイマスク４０枚	玉島小学校	授業、体験学習
12.15～12.16	車椅子１０台	春日小学校	授業、体験学習
12.19～12.20	車椅子１２台	耳原小学校	授業、体験学習
1.17～1.18	車椅子１０台	白川小学校	授業、体験学習
1.23～1.25	車椅子６台	郡小学校	授業、体験学習
1.24～1.25	車椅子６台	ナルク茨木・摂津拠点	春日丘高校授業
1.26～1.27	車椅子８台	茨木市障害福祉課	移動支援研修会
2.6～2.8	車椅子１０台	茨木小学校	授業、体験学習
2.13～2.17	車椅子１２台	山手台小学校	授業、体験学習
2.16～2.17	アイマスク４０枚	西河原小学校	授業、体験学習
2.20～2.21	車椅子１０台	庄栄小学校	授業、体験学習
2.24～2.27	車椅子１０台、高齢者疑似体験セットＳ８個	太田小学校	授業、体験学習
3.16～3.24	車椅子６台	西河原小学校	授業、体験学習

【事業評価】

・車椅子の貸出事業については昨年度の１．５倍の需要があり、介護保険等の制度が利用できるまでのつなぎやケガなど緊急で一時的に必要とされた方々に大変好評でした。

・新型コロナウイルス感染症の影響も徐々に収まってきて、学校等において高齢者疑似体セット等を利用した福祉教育の実施も元に戻りつつあり、各種備品の貸出も需要が増えてきました。

・今後も引き続き、返却時の消毒や清掃を徹底しながら、住民や各種団体等へ安心で安全な備品貸し出しを行っていきます。

7　大学との連携について

地区福祉委員会事業へのサポート並びに大学の調査研究協力など、市内の大学と連携し、地域の課題解決や地域づくりに取り組みました。

（１）太田地区

【藍野大学】

大学の先生や大学生が、地域の活動に参画することで、普段聞くことが出来ない子どもの発達や医療についての話が聞けるなど、参加者が日常生活で抱える不安を軽減することにつながりました。

また、大学から「地域で何か力になれることはありませんか？」と積極的な地域事業への関わりがあり、研究した専門分野を地元住民に還元する機会や大学生の学びや研究の場になりました。

１）なんでも相談会

月　日	場　所	内　容	参加者
4.19 5.17 6.21 7.20	ぷらっとホーム RanRan	藍野大学看護学科の教員と学生が、ぷらっとホーム RanRan で、高齢者対象の健康相談を実施	利用者、大学教員、学生、福祉委員 計 34 人

２）子育てサロン　ベビーちゃんデイ

月　日	場　所	内　容	参加者
6.9	太田東芝公園	『シャボン玉で遊ぼう』 藍野大学看護学科学生がイベントに協力	子どもとその保護者 保健福祉センター、 ラガール職員、 福祉委員　計 91 人
7.14	藍野大学	①抱っこについて 講師　藍野大学理学療法学科　坂上先生 ②熱中症について 講師　藍野大学看護学科　阿部先生	子どもとその保護者 保健福祉センター、 CSW、福祉委員 計 61 人
11.10	藍野大	①冬の感染症と予防について 講師　藍野大学看護学科　若宮先生 ②子どもの発達と遊びへの関わり方について 講師　藍野大学作業療法学科　尾藤先生	子どもとその保護者 保健福祉センター、 CSW、福祉委員 計 68 人
12.8	太田公民館	クリスマス会 藍野大学看護学科 阿部先生がイベントに協力	子どもとその保護者、福祉委員 計 46 人
3.2	藍野大学	子どもの特性理解と生活、遊びの工夫について 講師　藍野大学作業療法学科　高畑先生	子どもとその保護者 保健福祉センター、 福祉委員　計 30 人

（２）東地区

【立命館大学】

○サービスラーニングセンター開講科目「シチズンシップ・スタディーズ」との協働
立命館大学共通教育推進機構　秋吉先生と２回生５人

この取り組みを通じて、団地に住む方の新しいつながりが生まれるとともに、住民の新たなニーズを発見する機会になりました。

また、総持寺団地の活動に協力する機関や団体が増えるなど、住民のつながりだけではなく、地域全体で『総持寺団地を何とかしよう』という気運が高まりました。

月日	場　所	内　容	参加者
10.28 11.25 12.23	総持寺団地 集会所	「よりそい相談会」 CSW、民生委員、社会福祉協議会の３者が住民の生活上の心配ごとや困りごとなど、不安や悩みを受け止めて解決に向けて連携し対応。	住民、CSW、 民生委員、大学 計 19 人
10.14 11.11 12.9 1.14	総持寺団地 集会所	「カフェよりそい」 団地内に気軽に集える場所を作るため、福祉委員会が中心となり、月１回喫茶を開催。	住民、CSW、大学生 保健福祉センター、 地域包括支援センター、 福祉委員　計 53 人
2.25	総持寺団地 集会所	「カフェよりそい+」 月１回開催している「カフェよりそい」にプラスして、学生がスマホ教室やモルック(スポーツ)・ミニゲーム・けん玉のコーナーを実施。	住民、CSW、大学生 保健福祉センター、 地域包括支援センター、 福祉委員、民生委員 UR　計 47 人
10.11 11.15 12.20 2.7 3.30	東コミュニティ センター	「ささえあいミーティング」 地域住民、学生、専門職等関係機関が協働する「しくみづくり」につなげ、地域コミュニティの再構築を目指すための話し合いを実施。	住民、CSW、大学生 保健福祉センター、 地域包括支援センター、 福祉委員、民生委員 UR　計 22 人

【事業評価】

・市内にある２つの大学と連携し、大学の強みと地域の強みを組み合わせることにより、参加者の心を動かすとともに支援者の心も動かすことが出来、新たな活動につながりました。

・次年度も大学と連携をするとともに、本会の事業や他の地域活動でも大学との連携をする機会を作ることで、より魅力的な活動にするキッカケを作り、地域住民が自分の住むまちに関心をもってもらえるような取り組みを検討します。

８　地区福祉委員会活動の支援について

【社協地区担当職員】

住民や関係機関、専門職の主体性を高めながら、人・活動・もの・情報・制度などを融合させ、地域の福祉力を向上させます。

【地区福祉委員会】

身近な生活の範囲で住民同士が主体的に地域のくらし・ふくしについて話し合い、ともに支え合う活動を進めています。

民生委員児童委員、自治会や老人会など地域の各種団体からの選出や、趣旨に賛同するボランティアで構成され、住民同士の交流の場づくり、高齢者の見守り訪問、乳幼児や保護者のための子育てサロンなどの事業を展開しています。

茨木市では、福祉委員会を「地域福祉を進める中核」として位置づけ、おおむね小学区ごとに地域の課題にあわせた福祉活動を展開しています。

地区福祉委員会設置数	33箇所	福祉委員数	1,540人

（１）小地域ネットワーク活動の推進

①ボランティア活動推進事業（福祉施設の訪問、児童の登下校見守り、福祉教育など）							
実施 地区数	19地区	実施回数	410回	延べ 参加者数	8,375人	ボラン ティア数	1,887人
【特徴的な活動】 ・地域内の障がい施設や児童養護施設の利用者との交流 ・小学校授業見守り（小１プロブレム対策）							

②いきいきサロン事業（レクリエーションや制作活動、茶話会など）							
実施 地区数	26地区	実施回数	407回	延べ 参加者数	4,533人	ボラン ティア数	1,893人
【特徴的な活動】 ・集会所を活用し参加対象地域を絞ったサロン ・移動型出前サロン							

③地域健康づくり事業（健康体操教室やニュースポーツなど）							
実施 地区数	22地区	実施回数	363回	延べ 参加者数	5,930人	ボラン ティア数	1,228人
【特徴的な活動】 ・史跡探訪ウォーキング							

④子育て支援事業（遊びを通じての交流や子育てについての相談など）							
実施 地区数	26地区	実施回数	147回	延べ 参加者数	2,466人	ボラン ティア数	1,143人
【特徴的な活動】 ・乳幼児、保護者、プレママのつどい ・大学の先生のお話							

⑤高齢者地域見守り事業（声かけ訪問や会食・配食サービスなど）							
実施 地区数	24地区	実施回数	136回	延べ 参加者数	5,602人	ボラン ティア数	1,158人
【特徴的な活動】 ・お花見を兼ねたお散歩会 ・河川敷での観桜会							

⑥世代間交流（昔の生活の伝承や昔の遊びを通じての交流など）							
実施 地区数	23地区	実施回数	56回	延べ 参加者数	5,892人	ボラン ティア数	638人
【特徴的な活動】 ・小学校平和学習（戦争体験談） ・鉢伏山ウォークおよび宝探しゲーム							

⑦研修事業（福祉委員会活動に参画してくれる担い手の募集、各種勉強会など）							
実施 地区数	16地区	実施回数	21回	延べ 参加者数	490人	ボラン ティア数	18人
【特徴的な活動】 ・要支援者見守りマップ作成 ・福祉委員会活動について振り返り考えるワーク							

⑧広報発行（機関紙の発行、活動・行事のちらし配布など）							
実施 地区数	29地区	実施回数	66回	延べ 参加者数	5,536人	ボラン ティア数	123人
【特徴的な活動】 ・福祉委員会ホームページの作成							

（２）ぷらっとホーム事業

実施 地区数	10地区	実施回数	761回	延べ 参加者数	12,200人	ボラン ティア数	3,608人
【特徴的な活動】 ・健康体操、子ども会対象のイベント ・作品展、ハロウィン、クリスマスなど各種イベント							

※詳細は「（８）ぷらっとホーム事業について」に掲載

（３）敬老会事業

対象年齢	73歳以上	対象者数	45,665人
【特徴的な活動】 ・小学校児童からのメッセージ配付 ・敬老祝賀号として広報誌作成			

（４）歳末たすけあい事業

実施 地区数	14地区	実施回数	24回	延べ 参加者数	2,486人	ボラン ティア数	205人
【特徴的な活動】 ・子ども会を通じてクリスマスプレゼントを配付 ・対象エリアを分けたサロンクリスマス会の開催							

（５）地区福祉委員長会議

開催回数	主　な　内　容	延べ出席者数
（計２回） R4.5.30 R5.1.27	IBARAKI コミュニティ・カーシェアリングについて 敬老会について 賛助会員募集について 地区保健福祉センター・生活支援コーディネーターについて 生涯学習出前講座について	５６名

【事業評価】

・社協地区担当として、コロナ禍を経験したからこそ改めて地区福祉委員会活動の意味について考え、いま求められている活動は何かを福祉委員会が主体的に考えることができるよう、各種会議や研修、事業に参画しながら投げかけました。
そのため、『例年（従来）どおり』ではなく、求められている活動を無理なく継続するには、どのように実施すればいいかを福祉委員会として考える機会が増えました。
しかし、社協地区担当職員の活動実践を見える化するまでには至っておらず、見える化をしたうえで実践の普遍化することが積み残されています。

（６）地区福祉委員長連絡協議会

福祉委員会活動の発展と向上のために、各地区福祉委員会同士の情報交換や茨木市社会福祉協議会との連携を図ることを目的に組織しています。昨年度は連絡協議会が機能するために組織づくりを強化し、体制が整いました。

今年度は、『全地区共通で取り組むこと』『地域性を活かし取り組むこと』など、連絡協議会と社会福祉協議会職員が共に協議をすることで、茨木市全体の方向性を見出すことができました。

①会議関係

会議	開催回数	主　な　協　議　連　絡　事　項	延べ出席者数
役員会	（計４回） R4.5.17 R4.8.1 R4.11.7 R5.2.24	総会について／総会 地区福祉委員会活動補助金について 賛助会員募集について 敬老会のあり方について	36 人
全体会	（計３回） R4.5.30 R4.12.5 R5.3.24	地区行動計画について ぷらっとホーム事業について 福祉委員会活動体験会（交流事業）について	94 人

②企画部会

地区福祉委員会の連絡調整や地区福祉活動に関する研修などを円滑に実施するために設置された部会で、令和４年度はコロナ禍など有事の際でも地域住民で支え合いつながりを持ち続けられるよう、スマホやタブレット活用術の研修会を開催しました。

会　議	開催日	主な内容	出席者数
研修会	8.30	(講師)株式会社エリアマーケティングオフィス 法人営業部　部長　大橋　雅人　氏 1.初心者も熟練者も使える『LINE 活用術』 ・社会福祉や茨木市内の ICT 活用について ・災害時に役立つ機能などの紹介 ・LINE 操作方法、出来ることについての紹介 2. グループワーク 自分の地区で情報通信技術を活用して取り組めそうなことについて	福祉委員 37 人

【事業評価】

・地区福祉委員会活動について、連絡協議会と社会福祉協議会が共に協議をする内容や回数が格段に増え、そのため全地区共通で取り組むことに目を向ける機会も多くなってきましたが、市全体の福祉力向上までには協議が至っておらず、今後はそれぞれの地域性を尊重しつつも、市全体に反映できる活動を議論していきます。

（７）地区福祉委員会の活動状況について（地区行動計画策定を含む）

各地区福祉委員会の活動状況および今後の展開について

No.	地区	各地区活動状況	策定年度
1	中　条	ぷらっとホーム移転に伴い、福祉委員会として住民から求められている活動が何かを検討するため、“ぷらっと中条”利用者ではあるがアンケート調査を実施しました。 令和５年度は、そのアンケートの結果をもとに“ぷらっと中条”で開催する事業内容を計画・実施する予定で、また子育てサロンや他団体との共催事業についても、福祉委員会として実施する目的は何かを考えながら、運営方法を検討中です。 今後は、これら一連の検討内容を計画化していきたいと考えています。	令和２年度
2	春　日	昨年度ぷらっとホームを閉所したこともあり、福祉委員会事業そのものを見直す一年となりました。 いきいきサロンでは誰もが参加できるようにと、開催場所を各月で変えるなど地域住民に寄り添った活動を展開することができました。 コロナ禍で地域住民のつながりが途切れないよう、策定した行動計画をもとに、丁寧に話し合いを進めていきます。	平成 27 年度
3	玉　櫛	前回の地区行動計画策定から５年が経過し、この５年間の福祉委員会活動を本部役員で振り返りました。 計画では“災害にも強い玉櫛”をスローガンに掲げ、福祉委員会の役目は『繋がりをつくるためのきっかけをつくること』と考えて各種事業を展開しました。 しかしながらコロナ禍で会議や事業の継続的な運営が難しく、今後の計画では、福祉委員会事業を発展させるためのリーダーづくりに重点をおき組織体制を再構築していきます。	平成 30 年度
4	豊　川	今年度は、父親も参加できるよう土曜日に子育てサロンを実施するなど、既存事業の見直しを行いました。 さらに、お買い物支援(IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング事業を活用)では、利用者や活動への協力者も増加し、福祉委員会活動に地域住民が多く関わるようになってきました。 次年度は、今までの事業を振り返り、今後の方向性を計画化していく予定です。	未
5	見　山	地区内の各老人会と協働でサロンを開催し、銭原地区では IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング事業を活用し、自宅から徒歩では参加できない方の送迎やバス減便区間の送迎も実施しました。 今後は、地域内自治会とも協力しながら、ニーズ調査も実施予定です。	未
6	玉　島	地域全体が、単身高齢者世帯若しくは若年層世帯という二極化してきており、高齢者も子どもも居場所や行き場所を求めるが、それらの場所づくりを運営することの大変さに直面しています。 計画的に無理なく継続的な事業運営を検討するため、今後も丁寧な話し合いを重ねていく必要があると考えています。	令和元年度

No.	地区	各地区活動状況	策定年度
7	三　島	地区内５か所でのサロンを再開し、府営旧集会所を活用したいきいき交流広場も好評で三島地区以外からも参加者多数で、第２のぷらっとホーム化となっています。 また、式典・アトラクションといった従来型の敬老会にとらわれず、参加・再会・安否確認の機能を有した分散型の敬老事業を実施するなど感染予防と絆づくりの両立を目指した活動を展開しました。 次年度は包括的支援体制づくりを見据えた独自ワークを検討中です。	令和２年度
8	東	総持寺団地内の「つながりの再構築」の活動に、地域と大学が協働する仕組みを作り、その結果、大学生が主体となってイベントを開催することで、団地内の住民のつながりを作る機会や新たなニーズを発見することが出来ました。 次年度も、大学との連携を行いつつ、今までの取り組みを含めた行動計画の策定を進めていきます。	未
9	春日丘	今年度は、地域からの声に応えて子育てサロンを実施するなど、新規事業に着手することが出来ました。 次年度は、地区行動計画の策定を目指し、福祉委員会で新規事業と既存事業の運営の在り方を見直していきます	未
10	茨　木	コロナ禍で工夫しながら運営してきた活動を、単純に元通りにするのではなく、今後日常の活動をどうしていくのか、１つ１つ試す段階になってきました。 その中で、運営で負担が大きい事業については、事業本来の意味や目的を崩さず、福祉委員会として継続的運営ができるよう検討していくことで長期的な計画づくりへと繋げていくよう考えます。	未
11	石　河	IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング事業を活用し、買い物や通院支援を大岩地区限定で試験的に実施しましたが、石河地区全体での活用には及びませんでした。 賛同が得れない地域もありますが、１年間続けた結果で反響も大きく、次年度からは安元地区にも拡大する予定で、以前に比べ、地域住民の福祉委員会への関心度は高まってきています。	未
12	太　田	今年度は、出前カフェの再開や子育てサロンで IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング事業を実施しました。 ぷらっとホーム「らんらん」以外でも、地域住民の憩いの場となる機会を作ることができました。	平成 30 年度
13	清　渓	コロナ禍で、清渓地区の暮らしで変わったことや変わらなかったこと等について研修会を実施し、みんなで考える機会を作りました。 感染対策を考えながら体力測定会を実施したり、広報誌の記事を全て読まないと答えがわからないクイズを考える等、地域住民が福祉委員会活動に興味を持ち参加できるような創意工夫ある活動が展開できました。	令和元年度
14	安　威	将軍山自治会内に新設された自治会館を、ぷらっとホームとして活用できないかと検討を続けています。 ぷらっとホーム事業の目的を含め活用方法を福祉委員会全体で共有し、今後合意形成を図っていきます。	未

No.	地区	各地区活動状況	策定年度
15	福　井	他地区の活動状況を踏まえながら、活動再開に向けて役員会にて話し合いを重ねています。 次年度は、福祉委員会の重要性や各事業の目的、必要性等を丁寧に話し合い、これまで積み重ねてきた組織力と行動力を発揮して活動を再開していく予定です。	平成 30 年度
16	中　津	役員幹事会にて、地区行動計画策定についての説明を実施し、その中で、既存事業の課題点を話し合うことができました。 また、福祉委員会事業の在り方について話し合う中で、地区行動計画の策定についても併せて検討していきます。	未
17	大　池	今年度は、役員会を立ち上げることができ、毎月の大池地区運営委員会後様々な議論が展開され、その中で、既存事業を役員同士で意見を出し合いながら見直すことができました。 次年度は、役員会にて地区行動計画策定の趣旨を説明し、福祉員会活動の指針を定めていきます。	未
18	郡	今年度は、食事会や子育てサロンといった既存事業を一年通じて実施することができましたが、コロナ禍で参加者が激減するなど、各事業でまだまだ課題が残りました。 そのことからも、地区行動計画の策定を目指し、福祉委員会活動のこれからについて丁寧に話し合う必要があると実感しています。	未
19	天　王	新規事業としてぷらっとホーム事業を開始したことで、福祉委員同士が話をする機会も増え、福祉委員会活動の活性化に繋がってきました。 昨年度から検討していた対象地域を絞った近場でのサロンも実施するなど、必要性を検討した活動を着実に展開することができました。 次年度も、課題を改善しながら継続的に事業を実施するよう考えます。	令和 4 年度
20	沢　池	現地区行動計画を基に、隣接する幼稚園との交流の機会を増やすなど、ぷらっとホーム「愉楽」を活用した多世代が集える場づくりの運営を行い、また「愉楽」に足を運ぶことができない方に向けた送迎の支援(IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング事業を活用)も行うことができました。	平成 29 年
21	新郡山	今年度は、１年間通じて福祉教育を実施できたことから、学校や児童との関係が深まり、そこから、高齢者に関わる活動のみならず、若年層を巻き込んだ活動も展開することができました。 役員会では、地区行動計画策定に向けた話し合いを始めており、次年度の策定を目指していきます。	未
22	水　尾	ぷらっとホーム事業が本来持つ意味を考えながら、イベント的な事業ではなく、いかに日常生活に繋げるか、また継続した事業にするかに重点を置き、福祉委員会活動内容を変化させてきた。 地区行動計画については、委員長から役員正副部長に策定していくことの説明のみに留まっています。	未
23	葦　原	福祉委員会の役割そのものが希薄化している状況で、また附随して組織体制も脆弱化している状態なので、今一度、福祉委員会とは何かを振り返る必要があると考えています。	未

No.	地区	各地区活動状況	策定年度
24	庄　栄	今年度もコロナ禍で思うように活動が出来なかったため、行動計画策定の話は進まなかったが、次年度に向けて、地区福祉委員会事業の見直しや部会制の導入についての話は進めることができました。	未
25	畑　田	今年度は、地域健康づくり事業を実施するなど、コロナ禍で停滞していた福祉委員会活動を再開することができました。 次年度は、子育てサロンやいきいきサロンの再開に向けて動き出していることからも、しっかりと計画化した中で活動が展開できるよう検討していきます。	未
26	耳　原	ぷらっとホーム「子民家よってこ」を拠点に活動を展開し、その中で「よってこ食堂」の運営では、追手門大学との連携もあったが、地区福祉委員会の役割や目的、民生委員児童委員との役割分担等、コロナ禍を機に福祉委員会活動のあり方について、改めて振り返り考える時かと考えています。	未
27	山手台	地区福祉委員会では、唯一コミデイとつどいの広場を運営しているので、ここでのノウハウを活かし、山手台地区内の高齢者世帯へ手作りお弁当を届ける「コスモス弁当」が開始されました。 地域包括支援センター職員も同行してくれるので、安否確認、困りごとや福祉・健康に関する相談機能も有しています。	未
28	白　川	事業の見直しや新しい取り組みの実施に注力したため、行動計画策定の話まで出来なかったが、ぷらっとホーム設置に関しては、話し合いを重ねてきたことで、令和５年度に開設が決まりました。 次年度は、ぷらっとホーム事業と併せて、行動計画の策定についても進めていきます。	未
29	東奈良	以前から実施していたからという理由で事業を運営している感覚が強く、なぜ福祉委員会が事業を実施しているのか理解しきれていないのが現状です。 そのため、地域性の分析と求められている活動の検討を重ねていく必要があると思われるので、その中で行動計画の必要性についても話し合っていきます。	未
30	穂　積	昨年度、役員会で行動計画策定に向けた説明を行った中で、福祉委員会活動の見直しも進み、食事会までの送迎支援(IBARAKI コミュニティ・カーシェアリング事業を活用)や将棋教室などの新規事業に着手することができました。 次年度は、今年度の実績を基に今後の方向性を計画化していきます。	未
31	西河原	各地域内でいきいきサロンや昔の生活体験学習などを再開させるなど、コロナ禍でも地域で出来ることを考えて取り組んでいたため、計画策定の話までは出来ませんでした。	未
32	西	ぷらっとホームを拠点とし、様々な活動を展開してきましたが、その中で地区保健福祉センターの保健師と協働して健康講座を開催するなど、関係機関と連携を取りながら事業を実施することもできました。	平成 27 年度

No.	地区	各地区活動状況	策定年度
33	彩都西	福祉委員会活動がほぼ再開しているものの、当初事業に着手した理由が風化してきているのが現状なので、事業開始にあたっての理由を思い出しながら、今の福祉委員会でできることは何かを積み重ねていく必要があると考えています。 そのため、まちづくり推進協議会の構成団体の一員として、他団体と役割分担や協働しながら事業の安定化をはかっていく事も必要だとも考えています。	未

【事業評価】

・新型コロナウイルスの世界的流行が始まってから４年目に入り、この間地区福祉委員会活動も感染の波により一進一退でしたが、その様な中でも、感染防止を含めた活動のノウハウも福祉委員自らで考えて創意工夫し、サロン等これまで積み上げてきた活動を再開する地区が非常に多く見られました。

・活動再開の際、本来の目的や役割に立ち返り、改めて地区福祉委員会活動の重要性を認識することに、福祉委員だけでなく社協職員自身も注力することとなりました。

・次年度は、地区福祉委員長連絡協議会とも協議を進めながら、地区行動計画の策定を全地区で進めていきます。

（８）ぷらっとホーム事業について

社協地域福祉活動計画に掲げている「“場”づくり」の一環として、高齢者や障がい者・児、子どもからその保護者まで、誰もが“ぷらっと集う”地域交流の拠点を整えており、各種サロンや学習支援、研修会など、各地域ごとに特色のある取り組みが行われています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止により各地区で休止、または内容を変更して実施。

① こみゅにてぃ　かふぇ　ぷらぷら（三島地区福祉委員会）

開催日時	毎週土曜日　午後１時～４時
内　容	コーヒー、紅茶、ソフトドリンクなど
その他	キッチンカーによるクレープ販売、「おたがいさまプラザ」（食料品や衣類などのおゆずりコーナー）を併設

② 憩いの家（西地区福祉委員会）

開催日時	① 第１・３月曜日　午後１時半～４時 ② 毎週火曜日　午後１時半～４時 ③ 毎週水曜日　午後１時半～３時 ④ 毎週木曜日　午後１時半～４時 ⑤ 毎週金曜日　午後１時半～４時 ※いずれも第５週目は休み
内　容	① 子育てパパ・ママ集いの日（親子へ場の提供） ② ふれあいカフェ（飲み物とお菓子の提供） ③ 健康すいすい水曜日（近隣をウォーキング） ④ 健康麻雀を楽しむ日（麻雀を通して交流を深める） ⑤ 小物づくりカフェ（コーヒーを飲みながらハンドメイドを楽しむ）
その他	毎月第４金曜日は、保健福祉センター保健師による健康講座を開催

③ ティータイムりんりん（玉櫛地区福祉委員会）

開催日時	毎週火・金曜日　午前８時～午後２時
内　容	モーニング（パン・手作りスープ）、他飲み物の提供
その他	【第２金曜日のみ】 シフォンケーキセットの提供（生活支援センター「あい」より） 【不定期】 子ども会対象の焼き芋

④ プラットホーム水尾（水尾地区福祉委員会）

開催日時	毎週月・水・金曜日　午前１０時～午後２時
内　容	日替わりの手作り料理、飲み物の提供
その他	健康体操、子育てサロンの実施

⑤ 子民家“よってこ”（耳原地区福祉委員会）

開催日時	毎週木曜日　午後１時～４時
内　容	飲み物（お菓子付き）の提供
その他	毎月最終火曜日　午後３時３０分～６時３０分 子どもとその保護者のための「子民家よってこ食堂」を開催

⑥ 丘の家～愉楽～（沢池地区福祉委員会）

開催日時	毎週木曜日　午後１時３０分～４時
内　容	飲み物（お菓子付き）の提供
その他	毎月最終木曜日　午後５時～９時頃まで居酒屋営業

⑦ ぷらよりサロン（新郡山地区福祉委員会）

開催日時	第１・４木曜日　午後１時～４時
内　容	飲み物（お菓子付き）の提供
その他	飲食の持ち込みも可能

⑧ 地域の憩いの場 RanRan（太田地区福祉委員会）

開催日時	毎週月・火・金曜日　午前１０時～午後３時
内　容	飲み物（お菓子付き）の提供
その他	展示作品、野菜・果物販売

⑨ ぷらっと中条（中条地区福祉委員会）

開催日時	毎週木曜日　午前９時３０分～１１時３０分
内　容	飲み物（お菓子付き）の提供
その他	手芸、折り紙、健康講座、押し花などの企画

⑩ ぷらっとホーム　ウエンズ（天王地区福祉委員会）※令和４年７月開始

開催日時	毎週水曜日　午後１時３０分～午後４時
内　容	飲み物（お菓子付き）の提供
その他	くじ募金の実施（共同募金への協力）

【事業評価】

・今年度は新たに１地区で開設され、また、子どもから高齢者まで世代を問わず、“地域住民による地域住民のための”創意工夫した居場所づくりを各地区で展開しています。
・次年度は、地区福祉委員やぷらっとホームに集う方々等からのヒアリングをもとに、地区福祉委員会活動におけるぷらっとホーム事業の意味や価値を見える化していきます。

（９）地区保健福祉センターにおける社協地区担当職員の活動

令和４年度より南と西圏域に保健福祉センターが開設され、東保健福祉センターと合わせて３圏域に保健福祉センターが整備されました。

地域住民に必要とされる持続可能な包括的支援体制の仕組みづくり（重層的支援体制整備事業の活用）を見据えて、地域住民と専門職、行政等が協働していく中での中核的役割を担うべく、地区担当者職員が活動を展開しました。

１）東保健福祉センター

各種会議へ参画

東保健福祉センター連絡会／開催回数：２０回

東圏域連携会議／開催回数：９回　　エリア会議／開催回数：１５回

各地区福祉委員会活動事業と専門職の連携

いきいきふれあいサロン

①保健福祉センターの保健師や地域包括支援センター看護師による健康相談や血圧測定

②地域包括支援センター看護師に地域内の薬剤師を紹介してもらい、経口補水療法の講義を開催

地域健康づくり事業

保健福祉センターの保健師による健康相談、血圧測定

子育てサロン

①保健福祉センターの保健師による体重測定、個別相談

②三島地区福祉委員会『かかりつけ保健師を作ろう』内での個別相談

多機関協働の仕組みづくり

①地域住民と東保健福祉センターを含む関係機関、そして大学生や企業(UR)と連携し、自治会がない総持寺団地の活性化に向けて、計２回のイベントを実施。
イベントを実施することで、住民同士の新しい繋がりを作るキッカケを作るとともに、総持寺団地をサポートする団体も増えました。

②東保健福祉センターについての周知や地域関係機関との関係性を深めることを目的に『ウィンターフェスティバル』を開催。
計３２０人の参加者が来場し、東保健福祉センターを知ってもらう機会となったが、センター機能の周知が出来なかったことなど課題が残りました。

２）西保健福祉センター

各種会議へ参画

西保健福祉センター連絡会／開催回数：６回

西圏域連携会議／開催回数：２回　　エリア会議／開催回数：２７回

各地区福祉委員会活動事業と専門職の連携

いきいきふれあいサロン

①保健福祉センターの保健師による健康講話、塩分摂取量チェック等

②地域包括支援センター職員による健康相談、血圧測定等

③CSWや生活支援コーディネーターによる情報提供、講師派遣の提案

子育てサロン
保健福祉センターやこども健康センターの保健師による個別相談、身体測定
ぷらっとホーム
西地区福祉委員会ぷらっとホーム「憩いの家」で毎月健康講話、健康相談会を実施

多機関協働の仕組みづくり
「みんなで考える福祉教育」
各小学校からの依頼内容を基に、エリア会議で各専門職の抱える想いや願いを共有し体験者が障がいや地域課題等について我がごととして考えることができるプログラムを立案し、実施しました。
その中で、各専門職が地域の特性に触れ、学ぶことで地域づくりの一員として主体的に考えるきっかけを作ることができました。

３）南保健福祉センター
各種会議へ参画
南保健福祉センター連絡会／開催回数：３回
南圏域連携会議／開催回数：４回　　エリア会議／開催回数：４３回

各地区福祉委員会活動事業と専門職の連携
いきいきふれあいサロン
①保健福祉センターや地域包括支援センターの保健師による健康講話・血圧測定・健康相談等
②CSWや生活支援コーディネーターによる情報提供
子育てサロン
①保健福祉センターやこども健康センターの保健師による個別相談
②CSWによる情報提供
※上記以外にも各地区福祉委員会事業においてセンターの周知や専門職の役割説明及び個別相談を実施

多機関協働の仕組みづくり
センターのエリア会議において、保健福祉センターとして協働について考えるよう、誰もが関係する『災害』を軸に
①大阪北部地震を振り返りながら発災時→復興期→日常に戻るまでの動きを書き出し
②上記を見える化し共通認識を持ち
③最優先の困りごとや取り組むべきことを洗い出す
といった流れでワークショップ（通称：ぼやきワーク）を実施
『普段から支え合える＝災害時も支え合える』という、多機関協働の重要な第１歩を担いました。

【事業評価】
・包括的支援体制構築に向け多機関協働の１歩は踏み出す事ができたが、フォーマルサービスを実施する事業者や専門職と住民の福祉活動を融合させるまでは行きつかなかったため、今後も専門職と住民が協働する真の多機関協働に向け、丁寧な話し合いを重ねていきます。
・そのためにも、地区保健福祉センターにおける専門職等と協働していくにあたり、目的の明確化やそれぞれの役割の認識をしっかり行い、計画立てた取り組みが必要だと考えます。

（１０）IBARAKIコミュニティ・カーシェアリング事業

昨年度、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成その他事業「ウィズコロナ、ポストコロナに対応した地域モデルの開発」を活用し、社会福祉協議会が車輌という手段を確保することで、今まで着手することができなかった買い物支援、遠距離や人数制限といった理由から参加を断念していた方も参加できる出前サロンなど、オリジナリティ溢れる活動を展開できました。

○参画メンバー

玉櫛地区福祉委員会、石河地区福祉委員会、見山地区福祉委員会、太田地区福祉委員会
豊川地区福祉委員会、穂積地区福祉委員会、沢池地区福祉委員会、社協地区担当職員

○参画会議

定期的な会議を、社協主導ではなく地区福祉委員の皆さんと、日々の活動や地域課題、事業の運用ルールなどを共有しながら、一緒に悩み、楽しみ、創り上げることを大切にしています。

<u>事業の実施状況</u>

全　体

４月：本会広報誌「社協だより」にて事業PR(全戸配布)　135,400部
　　大阪府社会福祉協議会広報誌「ふくしおおさかNo.678」にて記事掲載　15,000部
５月：地区福祉委員長連絡協議会で参画地区による事業報告
５月：参画会議
８月：本会広報誌「社協だより」にて事業PR(全戸配布)　136,100部
１２月：本会広報誌「社協だより」にて事業PR(全戸配布)　136,200部
　　参画会議（中間報告会）
２月：社協賛助会員募集チラシにて事業PR(全戸配布)　135,600部

地区福祉委員会

① 玉櫛地区福祉委員会

実施回数	５月～１１月　(計４回)
場所	地区内各児童遊園
内容	移動型出前サロン 福祉委員会が地域住民の近くまで出向き、各児童遊園等でサロンを開催することで、様々な世代の方と交流を図り、身近な人を知る機会をつくりました。　(参加者延べ１１６人、スタッフ延べ５７人)
対象	近隣住民どなたでも

② 太田地区福祉委員会

実施回数	６月　(計１回)
場所	太田東芝公園
内容	出前サロン 気軽に地域活動に参加してもらえるように、地域住民に身近な児童遊園でシャボン玉など屋外でしか行えない内容を実施できました。 （参加者延べ６０人、スタッフ延べ３１人)
対象	近隣住民どなたでも

③ 穂積地区福祉委員会

実施回数	５月～３月　（計１０回）
場所	穂積地区内→穂積コミュニティセンター
内容	食事会会場までの送迎（参加者延べ１９人、スタッフ延べ２０人）
対象	食事会参加者

④ 沢池地区福祉委員会

実施回数	５月、１０月（計２回）
場所	沢池地区内→ぷらっとホーム「丘の家愉楽」
内容	会場までの送迎（参加者延べ１０人、スタッフ延べ４人）
対象	ぷらっとホーム「愉楽」参加希望者

⑤ 豊川地区福祉委員会

実施回数	４月～３月（計６４回）
場所	豊川地区内→アル・プラザ茨木（スーパーマーケット）
内容	お買い物支援（参加者延べ２６１人、スタッフ延べ１９４人）
対象	豊川地区にお住まいの方

⑥ 石河地区福祉委員会(大岩地区)

実施回数	４月～３月（計１６回）
場所	石河（大岩）地区内→病院、スーパーマーケット、理美容室等
内容	移動支援（参加者延べ２０人、スタッフ延べ１６人）
対象	石河（大岩）地区にお住まいの方

⑦ 見山地区福祉委員会

実施回数	４月～３月（計７回）
場所	見山地区内→病院、新型コロナワクチン接種会場等
内容	移動支援（参加者延べ３３人、スタッフ延べ１０人）
対象	見山地区にお住まいの方

【事業評価】

（全　体）

・買い物支援や移動支援、出前サロンなど各地域の実情や課題に合わせた事業を展開していく中で、今まで関わりが無かった団体や商店、地域の学生などが地区活動に参画してドライバーや運営スタッフ、駐車スペースの確保や交通整備などに対して協力を得ることで、地域ごとの新たなネットワークを構築することが出来るようになりました。

・参画地区が増えたことで、今まで公的なサービスや地域活動でも支援できなかった買い物や通院といった日常生活での困りごと、遠距離や人数制限といった理由から参加を断念していた方も参加できる仕組みを構築でき、地域住民主体で今まで取り組めなかった地域課題に柔軟に対応できる地域力を育むことができました。
・地域ケア会議やセーフティネット会議などで本事業の活動報告や活用方法の検討を行うことで、各専門職や団体が地域課題に対して地域住民と一緒に考える機会を生み出すことができました。
・今後はこれまで実施してきた事業を基軸に、専門職や各団体、企業と地域住民が協働する仕組み(包括的支援体制)を構築し、新たな地域課題を解決できる体制を創出していきます。

(出前サロン)
・待つのではなく出向くことで、障がい者や若年層世帯などの既存事業では関わりを持つことができていなかった方と顔の見える関係を築くことができました。

(買い物・移動支援)
・ただの移動支援だけではなく、車内で地域住民同士が会話や交流することができる場を創出することにもつながりました
・新たに連携と協働をすることができた商店や専門職、各種団体とのネットワークを既存事業の拡充や担い手確保につなげることができました。

以上のことから、本事業は移動手段として活用するだけでなく、地域の様々な課題に対してあらゆる機関や団体が福祉委員会活動に関わり、包括的な新たな地域の支え合い活動を生み出すことができる事業と考えられ、本事業をきっかけに各地域で様々な活動を発展、強化していくことが期待できると考えられます。

９　茨木市コミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）配置事業について

（担当地域：茨木・中条、大池・中津地区）

茨木市より委託を受けて、茨木市内１４地区のうち茨木・中条地区と大池・中津地区にそれぞれ１人ずつ、合わせて２人で担当し活動しています。

今年度も新型コロナウイルス感染症に留意しながらも、健康福祉セーフティネット会議の実施や、関連機関との連携に努める事が出来ました。

（１）茨木・中条地区

①対象者別の集計

分　　類	延べ件数	件数
高齢者（65歳以上）	544	56
（うち）1人暮らしの高齢者	421	41
（うち）高齢者のみの世帯	47	6
障がい者	1430	44
（うち）身体障がい者	127	2
（うち）知的障がい者	10	1
（うち）精神障がい者	1295	39
児童（15歳以下）	35	19
子育て中の親	365	23
（うち）ひとり親	313	9
青少年(16歳以上39歳以下)	282	8
DV被害者・被虐待者	57	4
ホームレス	0	0
外国人	52	1
その他	1319	60
合　　計	4084	215

②相談項目別の集計

相談内容	延べ件数	件数
障害児者に関する事	161	2
高齢者に関する事	234	17
その他の福祉制度	197	6
生活に関する身近な事	1443	64
健康・医療関連	961	31
年金に関する相談	267	5
生活困窮に関する事	622	16
就労に関する相談	356	15
財産管理・権利擁護に関する相談	29	1
消費者問題に関する相談	0	0
ローン・多重債務関連	72	1
DV・虐待関連	299	13
地域活動・ボランティア関連	105	1
住宅に関する相談	211	3
子育て・教育関連	234	18
外国人に関する相談	42	2
当事者組織に関する相談	0	0
安否に関する事	66	6
その他	842	38
合　　計	6141	239

③ケース検討会　　12 回

④各種サービスの利用申請　　8 回

（２）大池・中津地区

①対象者別の集計

分　　類	延べ件数	件数
高齢者（65歳以上）	346	46
（うち）1人暮らしの高齢者	214	20
（うち）高齢者のみの世帯	42	8
障がい者	1917	41
（うち）身体障がい者	104	3
（うち）知的障がい者	590	11
（うち）精神障がい者	1217	28
児童（15歳以下）	47	17
子育て中の親	63	8
（うち）ひとり親	51	4
青少年(16歳以上39歳以下)	247	9
DV被害者・被虐待者	25	3
ホームレス	0	0
外国人	0	0
その他	129	6
合　　計	2774	130

②相談項目別の集計

相談内容	延べ件数	件数
障害児者に関する事	955	27
高齢者に関する事	302	33
その他の福祉制度	45	2
生活に関する身近な事	504	22
健康・医療関連	630	22
年金に関する相談	45	1
生活困窮に関する事	148	7
就労に関する相談	300	6
財産管理・権利擁護に関する相談	169	5
消費者問題に関する相談	15	1
ローン・多重債務関連	9	1
DV・虐待関連	146	6
地域活動・ボランティア関連	5	1
住宅に関する相談	144	10
子育て・教育関連	65	20
外国人に関する相談	0	0
当事者組織に関する相談	0	0
安否に関する事	72	6
その他	42	1
合　　計	3596	171

③ケース検討会　　18 回

④各種サービスの利用申請　　11 回

【事業評価】

・今年度は昨年度と比べると、１５歳以下の児童からの相談件数が２地区共に減少しており、より小学校や中学校に対する周知活動や子どもに関連した機関との連携の強化に努めていく必要があると考えました。

・また相談内容が多岐に渡る事から、あらゆる相談内容に対応できるようになる必要があるため、今後も研修会の参加等によりスキルアップの向上に努めます。

１０　当事者組織の育成と支援について

（１）老人介護家族の会

介護の当事者でないと理解できない葛藤や悩みを共有できる場として、また介護保険制度を理解するための勉強会の場として、介護者が孤立しないための役割を果たしています。

今年度もコロナウイルス感染拡大の影響はありましたが、“つどい”に関してはより感染対策に気をつけながら実施することができ、さらに“いこいのカフェ”も多くの会員が心の拠り所として足を運んでくれました。

また、家族の会の情報が必要な人へ届くよう、広報いばらきや社協だよりに会員募集の案内を掲載したり、茨木市障害者・高齢者虐待防止ネットワーク連絡会や茨木市高齢者施策推進分科会にも参画することで、介護者の立場から行政施策への提言も行いました。

１）会員数

①会員　　１０７人　②賛助会員　　３６団体

２）会議等

内　　容	回　数	出席者数
総会	１回	３３人
家族の会つどい （いつまでも茨木で暮らせるように、低栄養の予防　等）	８回	延２０９人
リフレッシュ事業 (あわじ花さじき)	１回	３７人
役員会	１２回	延１４４人
いこいのカフェ	１０回	延１３９名
会報「会だより」発行	６回	

３）関係機関・他会との交流会、研修会

月　日	交流会・研修会等
4.25	大阪府介護者（家族）の会第５回（合同）役員会
5.12	大阪府介護者（家族）の会連絡会総会
6.10	大阪府介護者（家族）の会連絡会第１回役員会
9.13	大阪府介護者（家族）の会連絡会第２回役員会
9.27	概況調査の協力依頼につきアンケートに回答
12.8	大阪府介護者（家族）の会連絡会第３回役員会
12.13	大阪府介護者（家族）の会連絡会摂津市「楽々カフェ」視察
1.23	大阪府介護者（家族）の会連絡会　北摂ブロック交流会

４）各種講座への参加　**＊新型コロナウイルスのため講座等への参加はありませんでした。**

５）当事者組織の会として各諸会議等への出席

月 日	会　議　内　容
6.15	茨木市社会福祉協議会評議員会
1.26	茨木市障害者・高齢者虐待防止ネットワーク連絡会
2.24	茨木市高齢者施策推進分科会（ZOOM 開催）
3.28	茨木市社会福祉協議会評議員会

【事業評価】

・今年度は、より多くの方に家族の会を啓発するために、広報いばらきに会員募集の案内を掲載しましたが、見学者は増加したものの新規会員は増えず、結局は既存の会員が徐々に減っていく状況が続くだけでした。

・今後は、地域包括支援センターとの連携や高齢者サービス事業所連絡会での周知なども検討していきます。

・今年度はトライ式高等学院の学生に、「いこいのカフェ」への参加や当会の名刺作りのイラストの作成を行ってもらい、学生と当会との交流によりお互いに良い刺激を受ける機会となりました。

（２）発達障がいの子どもの将来を描く親の会「あかね空」

コロナ禍で不安を抱える保護者の悩みを少しでも軽減できるよう、感染防止対策を徹底した中でのサロンの開催や子育て支援課との連携、学校教育推進課や地区保健福祉センターへの出前講座など、当事者組織として今できることを常に検討し、積極的に活動を行いました。

〇あかね空サロン　　１０回

〇勉強会及び研修会　　２回

・学校教育推進課への出前講座

・地区保健福祉センターへの出前講座

〇講師派遣（学校、行政等）　　３回

【事業評価】

・子育て支援課の職員があかね空サロンに参加したり、学校教育推進課や地区保健福祉センターへこちらから出前講座をして研修を行ってもらうなど、行政との連携を積極的に図りました。

・茨木市市民活動センターの子育て中の方が中心に集まっている団体 Mama-LINK や保育幼稚園総務課、様々なマイノリティの立場にある人が居心地よく過ごせる場を作ろうと活動している団体「ぱれっと」に講師を派遣し、相互に連携を図り情報の共有等を行うことが出来ました。

１１　児童養護施設支援活動事業について

（１）児童養護施設支援

新型コロナウイルスの感染も少し落ち着いたとのことで、茨木キャンプを以前の形に戻して企画・運営を行い、従前からの歳末事業や中学卒業生お祝い事業、併せて「里親啓発企画」についても施設側と十分な検討の中で、工夫を凝らしながら実施することが出来ました。

月　日	場　　所	活動内容および参加者数
7.9	社会福祉協議会 会議室	救世軍希望館の里親啓発企画に協力 「里親ってなあに」　　参加者１０人
8.17～ 8.18	茨木市青少年 野外活動センター	児童養護施設キャンプ事業 参加：救世軍希望館　３０人 ※「レバノンホーム」は新型コロナ感染防止の観点より辞退 「子どもの家」は当日の大雨の影響で辞退
12.23	３児童養護施設	クリスマス訪問(お菓子のお渡し)、お年玉の配布 子供の家４７人、救世軍希望館４５人、 レバノンホーム３０人　　計１２２人
3.22	救世軍希望館	児童養護施設中学卒業生お祝い事業 各施設に訪問し記念品やお菓子を配布する。　６人 ※中学3年生の対象が子どもの家とレバノンホームにはおらず、 救世軍希望館のみの訪問

【事業評価】

・今年度は、新型コロナウイルスの感染が少し落ち着いたため、茨木キャンプを「1 泊 2 日」で開催、歳末クリスマス訪問や中学校卒業お祝い事業での記念品贈与なども実施し、子ども達に楽しい思い出を届けることができました。

・里親啓発企画の実施は今年度も行うことができましたが、新たな取り組みは今年度行うことが出来ませんでしたので、今後は各施設のニーズを把握したうえでの展開を積極的に働きかける必要があると考えています。

（２）「子ども“わいわい”ネットワーク茨木」との連携

役員として運営に参画し、本部と各ブロックの事業運営に社協事務局及び各地区福祉委員会として連携、支援を行っています。

①役員会　１回　**※各種事業は全て中止**

月日	場　所	主　な　内　容	出席者
4.25	子どもの家	１）各団体・ブロックの活動等の報告 ２）令和４年度活動計画・予算について ３）みんな集まれボランティアについて	２２人

【事業評価】

・本部及び各地区ブロックでも各事業がほとんど中止となったため、コロナ禍での新たな事業展開が課題となりました。

１２　生活福祉資金貸付事業について

令和２年３月より、新型コロナウイルス感染症の影響で、休業や失業等により収入が減少している世帯に対し、コロナ特例による緊急小口資金及び総合支援資金(生活支援費)貸付の申請受付を実施してきましたが、申請は令和４年９月末で終了し、令和５年１月から最初の償還が開始しました。

従前からの福祉資金貸付については、特例貸付を受けた方から新たな貸付の相談も多く、特に小口の相談件数や貸付件数は昨年に比べ大幅に増加しました。

（１）各種資金貸付状況

（円）

貸付資金種類		相談件数	貸付決定件数	貸付総額
福祉資金	生業経費	1	0	0
	技能習得経費	1	3	１，６０１，０００
	住宅改修経費	3	0	0
	福祉用具等購入経費	1	0	0
	障がい者用自動車購入経費	1	0	0
	中国残留邦人等にかかる経費	0	0	0
	療養費・生計維持経費	２４	0	0
	介護サービス等の経費	0	0	0
	災害臨時経費	2	0	0
	冠婚葬祭経費	2	0	0
	住居移転経費	３１	3	７６２，０００
	就職、技能習得等の支度経費	1	0	0
	その他日常生活経費	１９	１０	７８４，０００
	教育支援費（就学支援費を含む）	４３	１６	９，２４８，０００
計		１２９	３２	１２，３９５，０００
総合支援資金（生活支援費、住宅入居費、一時生活再建費含む）		４６	1	３００，０００
臨時特例つなぎ資金				
総合支援資金【生活支援費】(ｺﾛﾅ特例 ＊)		1,527	239	１２８，８５０，０００
不動産担保型生活資金		8	1	４，９５６，０００
緊急小口資金		８２	１３	１，１８８，０００
緊急小口資金（ｺﾛﾅ特例 ＊）		1,228	208	４０，９００，０００
生活復興支援資金		0	0	0
合　　計	Ｒ４年度	3,020	494	１８８，５８９，０００
	Ｒ３年度	8,878	3,203	１，４４１，９９５，０００

＊ 新型コロナウィルス感染症特例貸付は、令和２年３月から令和４年９月末まで実施

＊ 貸付決定件数は、令和５年３月３１日までに大阪府社協から決定通知があった件数を記載

（２）新型コロナウイルス特例貸付申請状況

（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
小口	32	38	32	22	38	42	2	－	－	－	－	－	206
総合	29	38	39	21	36	58	3	－	－	－	－	－	224

小口=緊急小口資金　　貸付金額１０万円以内、特別な場合２０万円
　⇒令和４年９月末で終了
総合=総合支援資金（生活支援費）　単身世帯１５万円、複数世帯２０万円、３月以内
　⇒令和４年９月末で終了

（３）新型コロナウイルス特例貸付フォローアップ支援事業活動状況

令和５年１月より償還が始まることに伴い、償還免除申請が令和４年５月から開始し、また償還免除対象外の方に対しては、償還猶予・少額返済申請が令和４年１２月１９日から開始しました。

償還困難との相談があった方や、償還免除が決定してもなお生活に困っている方等、特に支援が必要とされる方に対し、生活状況の聞き取りや手続きの案内、茨木市の自立相談支援機関との連携等によるフォローアップ支援を行いました。

相談対応件数：１６７件（電話)、８２件（窓口）
※令和４年１２月１９日から令和５年３月３１日まで

支援内容
・償還猶予、少額返済に関する問い合わせへの対応、償還免除申請手続きの案内や書類作成の支援
・償還困難との相談があった借受人に対する償還猶予申請の案内、相談・面談、申請受付および意見書作成

【事業評価】
・ただ申請を受け付けるだけでなく、生活状況を聞き取る中で支援ニーズを掘り起こし、市自立相談支援機関（あすてっぷ茨木）や他制度、従前からの福祉資金貸付に繋ぐことができました。

１３　日常生活自立支援事業について

判断能力が十分でない方の福祉サービスの利用援助や金銭管理を通じ、地域の中で利用者が安心して暮らし続けられるよう支援しています。　※（　　）内は令和３年度実績

（１）相談、問い合わせ件数　（人）

認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他	合　計
84（60）	70（37）	112（79）	5（4）	271（180）

（２）契約締結件数、解約件数　（人）

	前年度末 契約件数 （A）	新　規 契約件数 （B）	解約件数 （C）	令和４年度末 実施件数 （A＋B－C）	うち 生活保護 受給者
認知症高齢者等	30（31）	4（ 5）	7（ 6）	27（30）	17（19）
知的障がい者等	30（29）	2（ 2）	1（ 1）	31（30）	11（ 8）
精神障がい者等	34（35）	6（ 3）	5（ 4）	35（34）	25（26）
合　　計	94（95）	12（10）	13（11）	93（94）	53（53）

（３）契約前の訪問相談件数　（人）

認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他	合　計
15（9）	10（2）	15（15）	0（0）	40（26）

（４）生活支援員活動件数　（人）

	認知症高齢者等	知的障がい者等	精神障がい者等	その他	合　計
総件数	1,272（1,404）	1,294（1,297）	1,746（1,830）	0（0）	4,312 （4,531）
うち生保	846（866）	600（494）	1,348（1,310）	0（0）	2,794 （2,670）

（５）会議、研修会等への出席

・大阪府社協担当者、生活支援員会議　・対人援助専門職講座
・新任者研修会　・成年後見制度利用促進体制整備研修　・司法書士とケース検討　２回
・茨木市精神障害者支援ネットワーク会議研修会（講師として参加）

【事業評価】

・相談受付から利用までのフロー図を作成し、待機者やその関係者へのアセスメントを実施しながら整理を行い、前年度末の待機者を大幅に減らすことができました。
・司法書士とのケース検討で成年後見制度への移行のためのポイントを学び、事業の役割や限界などについて、担当職員が改めて知る良い機会となっています。

１４．（仮称）権利擁護センター開設に向けた準備について

社協の目指す権利擁護センターについて職員間で協議し、日常生活自立支援事業の待機者解消に取り組みながら専門職や関係機関との関係づくりを進めました。

（１）研修会への出席

・成年後見制度利用促進体制整備研修（基礎研修）

（２）司法書士を交えてのケース検討会　２回（日常生活自立支援事業のケースにて実施）

【事業評価】

・社協が目指す権利擁護センターの役割については、社協内の「検討チーム」で話合いを重ね、目標は示すことが出来ました。

・権利擁護に関する相談窓口としては、日常生活自立支援事業における課題から関係機関とのネットワークづくりに繋げることを目指していましたが、本格実施にまでは至りませんでした。

・一方、日常生活自立支援事業から成年後見制度へのスムーズな移行に向け、ケース検討会に司法書士を招いて成年後見制度に関する学びを深めることが出来たと考えています。

・今後は、令和６年度のセンター設置に向けて、その相談窓口としての機能と役割を明確に出来るよう、引き続き方向性や事業実施内容等を検討していきます。

１５　介護保険関係事業について

（１）居宅介護支援事業

１）居宅介護支援事業（ケアプラン作成）実績　※（　）内は３年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
介護プラン	94	97	95	90	88	85	94	92	90	89	90	89	1,093 (1,105)
予防プラン	9	9	9	8	8	9	8	8	10	9	9	9	105(120)
総合プラン	17	15	15	15	14	17	15	18	17	14	16	14	187(179)

２）要介護認定訪問調査件数

①茨木市要介護認定調査件数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合　計
2	0	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	17 (30)

②他市要介護認定調査件数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合　計
0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2(4)

３）会議、研修会等

・社協居宅内ミーティング、全体会議　・三島圏域地域リハビリテーション連絡会
・包括主催研修会、交流会、地域ケア会議への参加　・茨木市認定調査等研修会
・保険者主催ケアマネジメント研修会、ケアプラン研修会　・保健所主催研修会
・高齢者サービス事業所連絡会主催研修会
・茨木市障害者地域自立支援協議会主催研修会　・各種BCP作成研修会
・社協内部研修（災害支援関係、人権研修会等）　・認知症医療連携協議会研修会
・法定外研修に該当するケアマネジメント研修会

等へ参加　コロナ禍の為、対面ではなく、ICTや書面を活用した参加が中心となった。

（２）茨木市高齢者サービス事業所連絡会への参加・協力

居宅介護支援事業及びＣＳＷ配置事業を行っている中で今年度も事業所連絡会の「相談支援部会」へ加入し、事業所連絡会役員や部会運営委員として連絡会及び部会の事業運営について参加・協力を行っており、また「社会貢献事業」については事務局として関り、災害時の事業対応や住民への支援についてまとめていきます。

１）総会（書面決議）２）役員会　３）相談支援部会　４）ふれ愛フェスタ
５）社会貢献事業検討会への協力

【事業評価】

・経営面も含め事業所としての立て直しを図り、安定した経営に落ち着きました。
・今後は作業の効率化も図り、より業務や経営の改善につながるよう努めていきます。
・事業所内外での情報共有や意見交換を行い、信頼されるケアプラン作成と介護者や要介護者とその家族の支援に努め、併せて関係機関との連携も深めていきます。
・事業所連絡会の「社会貢献事業検討会」では、風水害時の連携方法を協議し、発災時の被災者の受入れ方法や安否確認方法など支援体制整備を引き続き検討していきます。

１６　ボランティアセンター運営事業について

ボランティア活動再開の兆しが見え始め、ボランティアの意気込みも上がってきたように感じられてきたことから、新しい講座やイベント、交流会などに取り組み、ボランティアが活躍できる場所を検討、実施しました。

（１）ボランティアの養成、育成

①ボランティア体験プログラム

	月　日	協力施設・団体数	内　容	体験者数
3年度	7.31～11.25	9プログラム	主に夏期休暇期間で、1日から数日でも気軽にボランティア体験ができるプログラム。	延28人
4年度	7.31～3.31	10プログラム	主に夏期休暇期間で、1日から数日でも気軽にボランティア体験ができるプログラム。	延26人

【体験者内訳】中学生：2人、高校生：6人、大学生：6人、専門学校2人、社会人：10人
【体験先内訳】高齢者関係：6人、障がい者関係：3人、子ども関係：7人、地域：10人

②ボランティア講座

※「ボランティアとは(意義と役割)」については毎回講話

※参加者の（　）内はボランティアスタッフの参加者数

講座名	月　日	場　所	内　容	参加者	備　考（講師ほか）
～自分にできることを一緒に探そう～ レッツトライ★ ボランティア講座	①3.2 ②4.13 ③5.18 ④8.17	社協 会議室	①　自己紹介、福祉とは ②　車いす体験 ③　ボランティアとは ④　振り返り ※③～④の間に各自ボランティア体験	①16人 ②10人 ③11人 ④5人 (④合宿等と重り)	福祉教育担当職員 ボランティアセンター 担当職員 【ボランティア活動実績】 計15名、延べ44回
医療施設 ボランティア入門	4.18	社協 会議室	・講話「医療施設ボランティア」とは ・演習「車いすの使用方法」	10人	ほうせんか病院 ボランティアセンター 担当職員
子育て応援 ボランティア	4.24	社協 会議室	・子育てサークルでの居場所作りの紹介 ・求めるボランティア	5人	子育てサークル「たまふら」 ボランティアセンター 担当職員
体操 ボランティア 養成講座	5.26	社協 会議室	・講話「体操ボランティアの活動紹介」 ・演習「体操ボランティアの体験と指導のポイント」	4人	元気いばらき体操普及会 ボランティアセンター 担当職員
夏休み ボランティア教室	①8.4 ②8.5 ③8.8 ④8.10 ⑤8.12 ⑥8.12	社協 会議室	①折り紙体験 ②絵手紙体験 ③盆踊り体験 ④手作りおもちゃ体験 ⑤フラダンス体験 ⑥視覚障がい者サポート	①中止 ②10人 (5人) ③7人 (2人) ④9人 ⑤9人 ⑥3人	登録ボランティア ボランティアセンター 担当職員

講座名	月　日	場　所	内　　容	参加者	備　　考（講師ほか）
どんな障害があっても学びたい～卒業後の青春を謳歌しよう！～	9.3	社協会議室及びZOOM	・講話「福祉型専攻科とは」及び実体験の話 ・意見交換	20人	北摂に学びの場を作る会代表　和田　佳樹　氏 ボランティアセンター担当職員
ボランティア入門講座	9.3	社協会議室	・ボランティアセンターの利用方法、ボランティア活動者による講話と活動紹介 ・意見交換	6人	ボランティアセンター担当職員 登録ボランティアグループ
高齢者サポートボランティア講座	10.20	社協会議室	・介護食について ・口腔ケアについて	3人（9人）	ボランティアセンター担当職員 【共催】 ボランティアグループ「あじさい」
	10.27		・ボランティア活動紹介 ・車いす実習	2人（6人）	
視覚障がい者サポートボランティア養成講座	11.16	社協会議室	・対談「視覚障がいのある暮らしとその工夫など」 ・当事者による野菜の調理（切る）見学 ・ボランティア活動紹介	7人（7人）	ボランティアセンター担当職員 【協力】 ボランティアグループ「クローバー」
くす玉折で作るフランス人形入門講座	11.27	社協会議室	・ものづくりボランティアの活動例 ・実習「くす玉折でフランス人形を作成」	18人（5人）	ボランティアセンター担当職員 登録ボランティア
	12.15		・実習「くす玉折でフランス人形を作成」	11人（6人）	
精神保健福祉ボランティア入門講座	11.26	社協会議室	・心の病（精神障がい）の理解や寄り添い方について ・ボランティア活動紹介	18人（11人）	ボランティアセンター担当職員 【共催】 精神保健ボランティア「夢ふうせん」
絵本の読み聞かせきっかけ講座	①2.15 ②3.1	社協会議室	・絵本の読み聞かせの演習 ・ボランティア活動の実体験の紹介	①14人（7人） ②13人（7人）	ボランティアセンター担当職員 【協力】 朗読ボランティア「かたつむり」
カフェボランティア体験講座	2.28	主原分室	・実習「カフェボランティアの体験」	5人	ボランティアセンター担当職員 登録ボランティア

③ボランティア交流会・研修会

名　　称	月　日	内　　容	参加者	備　　考
「障がいのある人もない人も一緒にボランティア」	①12.18 ②1.30	・一緒に楽しみましょう（ゲーム） ・フリートーク（座談会）	①16人 ②7人	ボランティアセンター担当職員

④自主イベント、居場所支援
※参加者の（　）内はボランティアスタッフの参加者数

イベント名	月　日	場所	内　　容	参加者	備　　考（講師ほか）
ボラ♡かふぇ	毎週 火・金曜 延87回	主原分室	・ボランティアによるカフェの運営、居場所づくり	延426人 （延89人）	毎月1～2回イベント実施
ボラ♡かふぇ ～健康麻雀～	6月プレ 7月開始 毎週月曜 延35回	主原分室	・認知症予防のための健康麻雀 ・初心者から初級者が対象	延300人 （延92人）	登録ボランティア
赤ちゃんサロン	延20回	主原分室	・赤ちゃんとその保護者の居場所づくり	延19組 （延12人）	【協力】 登録ボランティア
不登校 ひきこもりカフェ	8.10	主原分室	・不登校やひきこもりについて悩み相談やフリートーク	1人 （1人）	【ボランティア協力】 登録ボランティア（不登校・ひきこもり経験者）
こどもクッキング教室 ～防災食を作ってみよう～	①8.8 ②8.9	主原分室	・対象：おおむね小学校４年生から６年生 ・実習「防災食の調理実習」	①7人 （2人） ②8人 （2人）	市民活動センター 登録栄養士 ボランティアセンター担当職員 【ボランティア協力】 登録ボランティア
以下、ボラかふぇ内イベント。参加人数は再掲。					
スマホ教室	延7回	主原分室	・スマホの使い方についての個別相談会	延 35 人 （延 22 人）	大学生、高校生、 学習生活支援の卒業生等
豊かなセカンドライフを考える相談会	3.28	主原分室	・楽しく過ごせるセカンドライフについての個別相談会	5人 （2人）	登録ボランティア

⑤登録ボランティアグループ定例会への支援

	延べ件数	延べ人数	備考
4年度	74回	633人	各月一回程度　8グループ
3年度	22回	199人	緊急事態宣言及び蔓延防止措置期間はなし

（２）啓発活動

月　日	対　　象	広報誌／場所	内　　容	参加人数
5.22	市　民	イバラボ広場	みんな集まれ!!ボランティア inいばらき（イベント開催）	約1,000人
年4回	市　民	茨木市社協だより	「ボラセン通信」にて、活動報告や講座の案内等を発信	各回 約13万5千部
通　年	インターネットユーザー	Twitter	ボランティアセンターの業務等について発信（ツイート数：18回）	13,163 アクセス
10.31～ 11.12	市　民	いばらき孫・心・老フェスタ	茨木市社会福祉協議会および認知症マフの啓発	―

（３）他団体・機関での講座・研修会等への講師派遣協力

月 日	対　　象	場　　所	内　　容	参加者
6.17	向陽台高等学校 新卒コース２年生	向陽台高等学校	・ボランティアの説明及び参加の心構え ・ゲストスピーカー：追手門大社会祉部 沢池地区福祉委員会豊田委員長	123人
6.23	茨木シニアカレッジ 受講生(60歳以上市民)	社協会議室	・地域活動体験コース 「社会福祉協議会の活動」	15人
10.14	関係機関、民生委員、 地区福祉委員、 地域ボランティア	穂積コミュニティ センター	・「災害ボランティアセンター」について	20人
11.11	向陽台高等学校 新卒コース２年生	向陽台高等学校	・ボランティア活動の紹介資料提供	140人
2.18	きらめきフェスタ2022 ボランティアスタッフ	生涯学習センター きらめき	・基本的なボランティアについての考え方	15人
2.6	シニアカレッジ インターンシップ受入	社会福祉協議会	・ボランティアとは ・ボランティア活動の紹介 ・車いす体験	3人

（４）ボランティア活動状況

①ボランティア登録者

	総数	内訳		
		グループ数	グループ加入者	個人
4年度	1,054人	82団体	953人	101人
3年度	1,137人	71団体	971人	166人

②ボランティア活動人数および内容

	高齢者関係		障がい者（児）関係		乳幼児・児童		その他		合　計		演芸ボランティア	
	活　動 延日数	活　動 延人数	活　動 延日数	活　動 延人数	活　動 延日数	活　動 延人数	活　動 延日数	活　動 延人数	活　動 延日数	活　動 延人数	活　動 延日数	活　動 延人数
4年度	303	506	533	1,255	167	209	20	68	1,023	2,038	163	418
3年度	350	491	541	828	26	41	3	5	920	1,365	32	105
主な活動内容	・レクリエーションやクラブ活動の指導、補助 ・話し相手 ・各行事での介助 ・施設内移動補助 ・通院、通所等での介助 ・家事援助 ・家の片付け、ゴミ出し		・作業補助 ・外出時の介助 ・各行事での補助 ・施設内移動補助等 ・手引き ・通院、通所、通学等での介助 ・趣味活動の補助 ・家の片付け、ゴミ出し		・通学、通園支援 ・育児中の母親の援助 ・親子サロンなどの遊び相手		・多世代が集まるイベントなどの手伝い ・被災地支援活動（募金活動） ・広報ボランティアの取材や撮影				・演芸披露	

③電話訪問ボランティア（対象者：214 人(R3 年度 300 人）、活動者：13 人）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
活　動延人数	4 年度	15	16	22	19	17	17	19	19	18	13	17	14	206
	3 年度	18	13	21	15	14	15	17	17	18	15	18	16	197
訪　問延件数	4 年度	406	384	426	398	411	370	402	430	415	385	367	367	4,761
	3 年度	471	410	407	388	440	422	453	469	504	417	422	443	5,246

（5）ボランティア総合補償制度の加入取扱状況

	社協加入分				窓口受付分			
	加入件数		加入者数		加入件数		加入者数	
保険の種類	4 年度	3 年度	4 年度	3 年度	4 年度	3 年度	4 年度	3 年度
ボランティア活動保険	8	4	813	789	148	84	1,855	1,275
ボランティア行事保険	1	2	58	40	585	233	19,479	6,708
有償・非営利活動保険	0	0	0	0	43	43	153	269
移送中事故傷害保険	1	1	12	12	1	1	7	3
計	10	7	883	841	777	361	21,494	8,255

（6）ボランティアセンター運営検討委員会

運営検討委員会　２回

月 日	場　　所	内　　容	出席者数
8.24	社会福祉協議会 会議室	① 事業報告（上半期）について ② ボランティア活動への支援について	10人
2.9	社会福祉協議会 会議室	① 事業報告(下半期)について ② 事業計画（令和５年度）について	9人

（7）コロナ禍における取組

内容	詳　　細
講座のオンライン開催	ZOOMを利用し、オンラインでも参加できる講座や交流会を開催。

（8）ボランティアセンター運営状況

	来所人数	電話、メール等人数	相談件数	新規登録者数	
				グループ	個人
4 年度	1,538 人	4,458 人 (延 6,327 人)	251 件	9 グループ(79 人)	59 人
3 年度	1,615 人	1,870 人	390 件	4 グループ(24 人)	77 人

【事業評価】

＜全　般＞

・地域活動や施設でのボランティア受入れが徐々に増加傾向だが、ボランティアの登録者数は減少しており、高齢化に伴う課題があると考えられ、若者や福祉活動だけではないボランティアの要請を意識した講座等を展開しました。

・３年振りに『みんな集まれ!!ボランティア inいばらき』を開催。ボランティアの意欲　　も高まり、福祉団体や一般市民との交流の場が広がりました。

＜ボラかふぇ＞

・ボランティア希望者にとっては、体験先として気軽に参加できる場所になっているが、参加者には身近な地域以外に居場所を求める人もいるため、さまざまな動機の方が利用する居場所となっていると考えられます。

・登録ボランティアに依頼して、月に１～２回のイベントを実施し（スマホ相談会、演奏会など)、参加者の増加をねらい継続を図ります。

・体験のみではなく、既存のボランティア活動の場所が減ったボランティアの協力も得ることができました。

・健康麻雀の参加者が増加しているため、新規メンバーも受入れしやすい体制を検討する必要があるので、既存の参加者は他ボランティアの活動も案内して別の活動につなげたりと、新しく活動できる場所をつくる検討もしていきます。

＜広　報＞

・ＳＮＳ、ホームページでの発信不足は継続した課題で、また各事業所等への啓発についても、引き続き検討が必要であると考えています。

＜ボランティア活動支援＞

・メールでの連絡が定着してきましたので、今後はボランティアセンターとボランティア双方にとって、安全かつ効率の良い方法を模索していきます。

１７　災害ボランティアセンターに関する事業について

大阪北部地震で得られたノウハウを活かし、年に２回は災害ボランティアセンターの運営に関するシミュレーション研修を開催していますが、震災経験していない職員が増えてきたため継続的に実施する意義がさらに大きくなっています。

今年度も担当班を変更して実施し、また昨年度の東保健福祉センターに引き続き、南保健福祉センターと連携について検討会を実施しました。

①災害ボランティア養成講座

月 日	場　　所	内　　容	講師/担当	出席者数
2.28	社協会議室及びオンライン	【第一部】 ○講義 ・市内で想定される災害の特徴 ・災害時のボランティアの役割及び災害ボランティアセンターとは ・災害への備えと自分にできることへの気づき 【第二部】 ・災害ボランティアセンター運営シミュレーションの体験・見学	【第一部】 追手門学院大学教授 古川隆司 氏 【第二部】 追手門学院大学教授 古川隆司 氏 茨木市社会福祉協議会 職員 茨木市ボランティア連絡会	9人 ※1

※1 うちボランティア連絡会２人、市民活動センター2 人、災害登録ボランティア１人

②災害ボランティア講演会

月 日	場　　所	内　　容	対　象	出席者数
10.20	穂積コミセン	災害時の社会福祉協議会の役割 ・災害ボランティアセンターとは ・社協がなぜ災害支援に取り組むのか	穂積地区住民 関係機関	20人

③災害ボランティアセンター運営シミュレーション研修及び担当者会議

月 日	場　　所	内　　容	対　象	出席者数
10.5	社協会議室	・災害ボランティアセンター訓練の模擬練習	社協職員	13人
2.28	社協会議室	・災害ボランティアセンター訓練の模擬練習 ※①養成講座内で実施	社協職員	10人
9.6 10.11 10.17	社協会議室	・多機関連携ワークショップの企画会議	南保健福祉センター 社協職員	延14人
10.18 11.15	南地区保健福祉センター	・多機関連携ワークショップ ・当時のふりかえり ・初動の確認および共有 ・協働できることの確認	南保健福祉センター 社協職員	延22人

※社協内担当者会議　開催９回（災害ボランティア検討委員会５人）

④災害ボランティアセンター関係研修会（社協職員出席）

月　日	主催	内　　容	出席者数
9.20 11.2 12.9 1.23	環境省 　近畿地方環境事務所資源循環課 大阪府 　環境農林水産部循環型社会推進室資源循環課 大阪府社会福祉協議会 応用地質株式会社	災害廃棄物処理府県提案型モデル事業（近畿ブロック）ボランティア連携マニュアル（案）作成支援（大阪府）検討会議 ・基礎講座：災害廃棄物処理、VCの動き等 ・ワークショップ： ①発災後の各主体の対応等 ②ハンドブック骨子意見交換 ③ハンドブック修正案、研修ツール（素案）の意見交換 ④研修ツール案〔モデル例〕、マニュアル（案）の意見交換	延７人
9.12	大阪府社会福祉協議会	講師：コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do　代表　桒原 英文 氏 ・実践報告「人材育成の体系化や平時から災害時に強い地域づくりに向けた市町村社協の事例について」（愛媛県社会福祉協議会、宮城県社会福祉協議会） ・グループワーク： ①災害担当者の業務や役割とは何か ②どんなスキルや知識が必要か	１人
1.25	大阪府社会福祉協議会	大阪府災害ボランティアセンター運営シミュレーションについて 講師：コミュニティ・エンパワメント・オフィス FEEL Do 国立研究開発法人防災科学技術研究所 アル・システム株式会社 ・発災後の動き方の確認 ・LINE及びキントーン、Zoomを活用した被災状況確認や支援の見積りの作成 ・災害ボランティアセンターの省力化に向けたICTの活用シミュレーション(eコミやキントーン)	１人

⑤その他

・災害ボランティアセンターマニュアル整備
・災害ボランティアセンターパンフレット、BCP の作成検討。

【事業評価】

・災害時の役割を理解して行政や関係機関同士で連携できるよう、今後も研修会や話合いの場を持つことが必要だと考えられます。
・また、マニュアルや BCP の改定等を続ける中で、社協として優先順位をつけて取り組むべきことを再考し、他事業所へ協力を求めることや呼びかけ等も必要と思います。
・災害ボランティアセンター自体の周知も市民や各種事業所へ行っていくことが継続した課題ですので、改定したパンフレットを使用し、広く啓発に努めていきます。

１８　福祉車輌移送サービス事業について（車いすでの乗降可能車）

①利用登録者数　83人(前年度：171人)

②ボランティア登録者数　16人（前年度：13人）

③利用実績

月		新規登録	利用状況（車両台数２台）				走行距離(km)
			30分未満	30分以上4時間未満	4時間以上8時間未満	計	
4月		0	4	3	0	7	63
5月		2	0	8	0	8	109
6月		1	0	8	0	8	64
7月		1	0	7	0	7	99
8月		2	0	4	0	4	54
9月		0	0	6	0	6	71
10月		0	0	4	0	4	67
11月		1	0	5	0	5	49
12月		0	0	3	3	6	118
1月		0	0	4	0	4	79
2月		1	0	3	0	3	42
3月		1	1	6	1	8	134
計	4年度	9	5	61	4	70	949
	3年度	5	5	37	7	49	820

【事業評価】

・３年度は依頼受付を休止した期間もありましたが、４年度は感染対策を徹底し活動を実施したため件数も増加しています。

・登録更新として利用者に登録意思の確認を行い、希望されない方は登録を削除したため利用登録者数は減少しました。

・月に１回以上活動できる運転ボランティアが３人と少なく、人材確保のために各種広報誌に掲載するも、なかなか希望者が集まらないのが現状です。

・他に福祉タクシーなどを利用している方々からは、経済的な事を考えると「一度でもこの移送サービスを利用できるのは助かります」との声も寄せられています。

１９　福祉教育事業について

各地区担当者が依頼内容や地域の実情に合わせ、当事者や教員、各専門職等と協働してプログラムをコーディネートすることで、「互いの違いを知り、違いを認め合うことの大切さ」を考え、体験者自らが行動に移すことができる内容を提供することに努めました。

体験者のみならず、依頼する側も福祉教育の重要性を理解した上で足並みを揃えて協働実践していくため、市教育センターと連携を取り中堅教職員向け研修会も実施しました。

（１）中堅教職員研修会　【参加者：茨木市内中堅教職員（10年経験者）19人】

月 日	場　　所	内　　容
8.1	市民総合センター （クリエイトセンター）	①大阪教育大学教育協働学科 特任教授　新崎先生による講義 「学校教育」と「社会福祉」の協働の必要性について ②社協担当者からの説明 社協の福祉教育実践について ③実践事例の発表 郡山小学校の実践内容について

（２）小中学校への福祉体験学習

月 日	場　　所	内　　容	備　　考 （対象学年・協働団体）
6.28 6.30	郡山小学校	『郡山お助け隊プロジェクト』 郡山小学校 3 年生が福祉委員会のお助け隊となり、一年を通じて地域の方々と一緒に自分たちの住む地域(人や場所や繋がり)について考え、学び、行動できることを目的として授業を実施しました。 【1 学期】 テーマ “自分たちの住む地域をよく知る” 1 日目(6.28) ①　地域の活動者を知ろう！仲良くなろう！ ②　自己紹介ゲームをグループごとで実施 2 日目(6.30) ①　自分たちの住む新郡山地区をよく知ろう!! ②　グループに分かれて地域探検 地区福祉委員会のぷらっとホームや公民館などを探索	3年生対象 新郡山地区福祉委員会 郡山地区民生児童委員会 郡山地区主任児童委員 田村ＣＳＷ 地域包括支援センター ほくせつ24　平瀬氏

月 日	場　　所	内　　容	備　　考 （対象学年・協働団体）
10.20 12.6 1.13 2.27	郡山小学校	『郡山お助け隊プロジェクト』 郡山小学校 3 年生が福祉委員会のお助け隊となり、一年を通じて地域の方々と一緒に自分たちの住む地域（人や場所や繋がり）について考え、学び、行動できることを目的として授業を実施しました。 【2 学期】 テーマ “みんな違って、みんないい” ～お互いのちがいを知り、違いを認め合おう～ 1 日目（10.20） ① 平瀬さんとのお話し ② 質問タイム ③ 平瀬さんと一緒に車いすドッチボール 2 日目（12.6） ① 小学校周辺で車いす体験 ② 地域の危険個所を調査 （タブレットで撮影） ③ グループで振り返り （自分たちの住む地域がもっと良くなるには） 【3 学期】 テーマ “自分たちには何ができるかな？” 1 日目（1.13） ② これまでの学びを振り返る ③ 作戦会議（地域の中で自分達に何ができるか） 2 日目（2.27） 「郡山みんななかよくハッピーランド」を開催	3年生対象 新郡山地区福祉委員会 郡山地区民生児童委員会 郡山地区主任児童委員 田村ＣＳＷ 地域包括支援センター ほくせつ24　平瀬氏
9.16	東奈良小学校	① 長谷川さんのお話 ② 車いす体験 ③ 長谷川さんへ質問タイム	3年生対象 ほくせつ24　長谷川氏 藤岡相談員
10.26	春日丘小学校	① クイズ（自分たちの住む地域をどのくらい知ってる？） ② 自分たちの住む春日丘地区の良い所を探そう ③ 車いす体験 ④ 小学校から公民館までの間の良い所やバリアを探そう ⑤ 校内での車いす体験	3年生対象 春日丘地区福祉委員会 下戸ＣＳＷ
11.4	忍頂寺小学校	① 六條さんのお話 ② 六條さんと一緒にボッチャ体験 ③ 六條さんへの質問タイム	3、4年生対象 茨木障害フォーラム六條氏 スポーツ推進委員 茨木市スポーツ推進課小林氏

月 日	場　　所	内　　容	備　　考 （対象学年・協働団体）
11.9	大池小学校	① クイズ(自分たちの住む大池地区のいいところを探そう) ② 小学校から大池コミセンまでの車いす体験 ③ 校内での車いす体験	3年生対象 大池地区福祉委員会 大池地区民生児童委員会 大池地区主任児童委員 秋吉ＣＳＷ
11.11	耳原小学校	① 長谷川さんのお話 ② 長谷川さんと一緒に“じゃんけん列車”をしよう	4年生対象 ほくせつ24　長谷川氏、 高橋相談員
11.15	安威小学校	① 平瀬さんのお話(生い立ちや日常生活の様子、仕事について) ② 車椅子体験(ドッジボール) 平瀬さんと一緒にドッジボール ③ 平瀬さんへ質問タイム	3年生対象 ほくせつ24　平瀬氏
11.18	北陵中学校	① 認知症の基礎知識と対応について ② 認知症サポーター養成講座【包括】 ③ 認知症への適切な対応を考えよう ④ 学校の先生と生徒、関係機関みんなで寸劇 ⑤ ヤングケアラーについて考えよう【ＣＳＷ】	2年生対象 地域包括支援センター 清水ＣＳＷ 福隅ＣＳＷ
11.18 12.2	東中学校	① 講話(みんな違ってそれでいい) ② 車いすドッチボール	1年生対象 秋吉ＣＳＷ
11.22	西小学校	① クイズ(自分たちの住む地域をどのくらい知ってる？) ② 校内での車いす体験 ③ 小学校から西公民館までの車いす体験	3年生対象 西地区福祉委員会 新田ＣＳＷ
11.29	穂積小学校	① 六條さんのお話し(みんなが住む地域はどんなところ？) ② 六條さんへの質問 ③ 校内での車いす体験	3年生対象 茨木障害フォーラム六條氏 穂積地区福祉委員会 下戸ＣＳＷ
12.1	彩都西小学校	① 佐藤さんのお話と質問タイム ② 佐藤さんと一緒に歩こう	3年生対象 茨木市視覚障害者福祉協会 佐藤氏 ガイドヘルパー丹下氏
12.2	沢池小学校	① 六條さんのお話(生い立ち、身近なバリア、バリアフリー) ② 六條さんへの質問タイム ③ 車いす体験	3年生対象 茨木障害フォーラム六條氏 新田ＣＳＷ
12.8	清渓小学校	① 佐藤さんのお話、絵本読み聞かせ、洗濯たたみ、包丁で野菜を切る実演 ② みんな佐藤さんのために校内を案内しよう ③ 佐藤さんへ質問タイム	全校生徒対象 茨木市視覚障害者福祉協会 佐藤氏 ガイドヘルパー丹下氏 清渓地区福祉委員会

月 日	場　　所	内　　容	備　　考 （対象学年・協働団体）
12.14	玉島小学校	① 車いす体験（学校内と外周） ～平瀬さんと一緒にバスケを楽しむ～ ② アイマスク体験 ③ 平瀬さんのお話と質問タイム	3年生対象 ほくせつ24　平瀬氏 玉島地区福祉委員会
12.16	春日小学校	① 平瀬さんのお話し(みんなが住む地域はどんなところ？) ② 平瀬さんへの質問 ③ 校内での車いす体験、平瀬さんとリレー対決	3年生対象 ほくせつ24　平瀬氏 春日地区福祉委員会 久保ＣＳＷ
12.20	耳原小学校	① 長谷川さんのお話 ② グループに分かれて、長谷川さんと一緒に爆弾ゲーム。風船を回して音楽がとまった時に風船をもっている人が、長谷川さんに質問。	3年生 ほくせつ24　長谷川氏 藤岡相談員
1.18	白川小学校	① 平瀬さんのお話(生い立ちや日常生活の様子、仕事について) ② 平瀬さんへ質問タイム ③ 車椅子体験(鬼ごっこ) 平瀬さんと一緒に鬼ごっこ	3年生 ほくせつ24　平瀬氏
1.25	郡小学校	① クイズ(自分たちの住む地域をどのくらい知ってる？) ② 校内での車いす体験 ※道路凍結のため内容変更	3年生対象 郡地区福祉委員会 久保ＣＳＷ 障がい相談センターりあん 木内氏
2.3	東奈良小学校	① 森川さんのお話 ② ジェスチャーゲーム ③ 森川さんへ質問タイム	3年生対象 茨木市聴力障害者協会 森川氏 手話通訳(障害福祉課)
2.16	西河原小学校	① 佐藤さんの自己紹介(生い立ちや日常生活の様子) ② 点字絵本読みと白状を使っての歩行(実演) ③ 子ども達も白状を使って歩いてみる ④ 佐藤さんへの質問タイム	3年生対象 茨木市視覚障害者福祉協会 佐藤氏 ガイドヘルパー瀬氏
2.21	庄栄小学校	① 高山さんのお話(生い立ちや日常生活の様子、困っていることについて) ② 高山さんへ質問タイム ③ 車椅子体験(室内遊び)	3年生対象 ほくせつ24　高山氏、 藤岡相談員
3.9	太田小学校	① 平瀬さんのお話(生い立ちや日常生活の様子、仕事について) ② クイズ(バリアフリーについて)	3年生対象 ほくせつ24　平瀬氏
3.22	西河原小学校	① ボッチャ体験(車椅子を利用して、ゲーム)	3年生対象 スポーツ推進課

（３）各団体への福祉体験学習

月 日	場　　所	内　　容	参加者数
9.20	NPO 法人ナルク	車いす講習 ① 講話 ② 地域実習（クリエイトセンター周辺での車いす体験）	会員　19人
9.29	生活クラブ生協大阪（ほほえみ　ケアたすけあい）	車いす講習 ① 講話 ② 地域実習（クリエイトセンター周辺での車いす体験）	会員　12人

【事業評価】

・地区担当職員が中心となってコーディネートすることで、様々な組織や団体を巻き込みながら、対象者それぞれの実情に寄り添った内容で提供が出来ました。
・「郡山お助け隊プロジェクト」では一年を通じて、子どもたちが“自分たちの住む地域”“そこに住むひと”に対し関心を持つきっかけとしたり、関わる地域住民や関係機関同士が話し合う場を創出するなど、福祉教育を通じて地域福祉推進の一助にも繋がりました。
・それぞれの依頼内容に合わせて、視覚障がいや聴覚障がいなど様々な障がいをもつ当事者が新たに本事業に参画していただくことで、多種多様な実践を行うことができました。
・中堅教職員に向けた研修会では、教職員が学校教育と社会福祉が協働することの意義や必要性、具体的方法を共に検討することができ、そこから実際に協働実践するまでに発展させることができました。

２０　共同募金事業について

（１）常任理事会　　令和４年７月２５日(月)

（２）理事会　　新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から未開催

（３）自治会長説明会　　資料送付による周知と協力依頼

（４）街頭募金活動　　１０月３日・２０日、１１月２日開催

場所：ＪＲ茨木駅、阪急茨木市駅、阪急南茨木市駅

（５）赤い羽根共同募金実績額種別内訳

(円)

	令和４年度実績額	令和３年度実績額	対前年度増減額
戸別募金	６，１５３，１０２	６，５１９，３５３	△３６６，２５１
学校募金	１３０，２３０	６６，９４８	６３，２８２
職域募金	９４，０７４	１００，９３３	△６，８５９
街頭募金	４０２，７３４	３２，１５３	３７０，５８１
法人募金	９２７，３９８	１，１１０，９７６	△１８３，５７８
その他	２０７，８２１	２２０，５００	△１２，６７９
バッジ	１６０，０００	１４４，５００	１５，５００
計	８，０７５，３５９	８，１９５，７２３	△１２０，３６４

（６）歳末たすけあい運動募金実績額種別内訳

(円)

	令和４年度実績額	令和３年度実績額	対前年度増減額
戸別募金	６，０９１，８３８	６，３８４，５９６	△２９２，７５８
職域募金	１０７，０４３	１０９，７６７	△２，７２４
法人募金	２１３，７００	１２０，７４２	９２，９５８
その他	６３，１５０	１０２，６００	△３９，４５０
計	６，４７５，７３１	６，７１７，７０５	△２４１，９７４

（７）くじ募金

(円)

日時	場所	協力者数(延べ人数)	募金額
10/15（土） 10：00～12：00	コープ茨木白川	６１	１８，３００
10/29（土） 13：00～15：00	イオンタウン茨木太田	４６	１３，８００
11/2（水） 13：30～16：00	ぷらっとホームウエンズ	１５	４，５００

（円）

日　　時	場　　所	協力者数(延べ人数)	募　金　額
11/6（日） 10：00～11：00	de 愛･ほっこり見山の郷	５３	１５，９００
11/9（水） 13：30～16：00	ぷらっとホームウエンズ	２８	８，４００
11/10（木） 13：30～16：00	丘の家　～愉楽～	３９	１１，７００
11/11（金）午前中	清渓地区福祉委員会	１６	４，８００
11/16（水） 13：30～16：00	ぷらっとホームウエンズ	１５	４，５００
11/20（日） 9：00～12：00	郡文化祭	６８	２０，４００
11/24（木） 13：30～16：00	丘の家　～愉楽～	４２	１２，６００
11/26（土）午前中	石河地区福祉委員会	１４	４，２００
11/30（水） 13：30～16：00	ぷらっとホームウエンズ	２６	７，８００
12/21（水） 13：00～15：00	らくらく亭	４４	１３，２００
10/3（月） ～ 12/20（水）	茨木市社会福祉協議会	１８３	５４，９００
合　　計		６５０	１９５，０００

＊昨年度より 32,100 円の増

【事業評価】

・昨年度に続き「くじ募金」を実施したところ、多くの地区福祉委員会や民生委員児童委員協議会に協力をしていただくことで、周知の機会が格段に増えました。
・また、この「くじ募金」では、福祉委員自身が、募金をしてもらいやすいようにレイアウトや声かけの方法を考えるなど、地域内での自主性が見られました。
・他に生協や企業、農事組合法人等のスペースを借用しての周知活動により、本会とこれら団体との新しいつながりを持てた事が､団体と地域住民を繋げるキッカケにもなりました。
・次年度は、市内の各種イベント等にもこの「くじ募金」が導入出来るよう検討し、共同募金や歳末たすけあい募金活動の周知に努めていきます。

２１　コロナ禍支援事業について

令和２年度から、コロナ特例での福祉資金貸付制度を申請された中で、生活に困窮している方々を対象に「生活相談及び食料品のお渡し会」を２年に渡り実施してきましたが、４年度は未実施となりました。

【事業評価】

・この結果について事務局でも検証を行い、４年度途中から始まりました「コロナ特例の資金貸付を行った世帯へのフォローアップ事業」と連動させ、その対象者への支援の一つとして、今まで「善意銀行預託事業」で協力いただいている食品関係の企業や団体と連携し、生活困窮者と食を結び付けるような支援を行うよう努めます。

・また、地域におけるつながりの喪失や孤立等の地域課題解決に向け、ボランティアや関係団体、企業、法人等と協働し、各ニーズに合った相談対応や各種支援も実施出来るよう検討と実施に努めます。

２２　茨木市高齢者・障害者各事業所連絡会との協働について

各事業所連絡会と連携を取り、台風や地震等のあらゆる災害時に、施設の提供や避難所と災害ボランティアセンターとの連携、各事業所による所在地域での安否確認や事業所間の連携による支援等について検討、実施を進めます。

（１）茨木市高齢者サービス事業所連絡会との協働

各事業所から推挙された「防災担当者」を中心に連絡会全体の防災意識を高め、その後は５つの圏域ごとでの防災対応について検討していきます。

日　　時	内　　容	出席者数
令和４年10月４日	令和４年度第１回研修会 「風水害時の対応（社会貢献事業）」 ・事例「熊本県人吉市水害による被災状況（YouTube）」 ・圏域ごとで部会を越えたグループワーク	４６人
令和４年10月24日	令和４年度第１回検討会 ・10月４日開催の研修会意見からの感想や課題について ・第２回研修会の開催について（提案） ・モデル圏域による検討会の開催（提案）	５人
令和４年12月14日	令和４年度第２回研修会 「風水害時の対応（社会貢献事業）」 ・茨木市災害ハザードマップの活用の仕方について ・圏域ごとで部会を越えたグループワーク	３３人
令和５年１月30日	令和４年度第２回検討会 ・第１・２回研修会意見からの感想や課題について ・今後の進め方について	８人
令和５年３月９日	令和４年度第３回検討会 東圏域における「風水害時の対応（社会貢献事業）」検討会 ・事業所連絡会における社会貢献事業について ・東圏域での検討会の趣旨について ・今後の進め方について（提案）	１４人

【事業評価】

・全会員（各種サービス事業所）を対象に年２回の研修会を実施し、会員全体に事業所として、個人として防災意識を持っていただき、今後の風水害時での事業所で考えること、支援できること等を考えるきっかけづくりが出来ました。
続いて、茨木市域を５圏域に分けて考えることとし、手始めに東圏域をモデルとして挙げ、各事業所の防災担当者による検討会を立ち上げ、次年度につなげていくこととなりました。

（２）障害者事業所連絡会への参加

障害事業所との関係性をより深めることや障害事業所が取り組む「地域の障害理解」を一緒に進めることを目的に、会議や研修に参画をし、社協が取り組む福祉教育の活動など協力を得られるように進めていきました。

日　　時	内　　容	出席者数
令和４年４月 18 日	・新型コロナウィルスについての情報共有 ・役員体制について	１１人
令和４年５月 16 日	・新型コロナウィルスについての情報共有 ・虐待防止研修について ・放課後等デイサービスの連絡会立ち上げについて ・総会について	１０人
令和４年６月 13 日	・新型コロナウィルスについての情報共有 ・総会の役割分担について	１０人
令和４年７月 11 日	・新型コロナウィルスについての情報共有 ・各事業所の状況報告について ・総会について(資料確認) ・地域生活支援拠点 PT 報告 ・障がい者支援施設部会より情報提供	１０人
令和４年７月 29 日	・茨木市障害者福祉サービス事業所連絡会総会	８１人
令和４年８月 29 日	・各事業所の状況報告について ・総会振り返り	８人
令和４年９月 26 日	・地域生活支援拠点に関しての説明 ・各事業所の状況報告について	８人
令和４年 11 月 21 日	・各事業所の状況報告について ・当事者部会選考委員について ・各部会の取り組みについて	８人
令和４年 12 月 26 日	・各事業所の状況報告について ・虐待防止の研修会について	７人
令和５年１月 16 日	・各事業所の状況報告について ・虐待防止研修会について(スケジュール、役割分担等)	８人

（３）その他

・地域移行支援・地域定着支援部会への参加　計１０回

・障害者避難所プロジェクトチームへの参加　計　１回

※令和３年度に作成した災害時の「避難所ガイドブック」を社協だよりで啓発。

【事業評価】

・当事者や支援者が、子ども達の前で日常生活の実情について話をすることやゲームを通じて関わりをもつことで、子ども達に障がいを理解する機会を作ることが出来ました。

・今後は、今回出来なかった災害時の連携について考える機会を作るように努めていきます。